

看護学科

■ 看護学科 目次

分野「人を敬う」

敬天愛人

医療福祉の心	1
人権と倫理	2
障がいがある人の理解と支援	3
障がい者福祉	4
子ども看護実習Ⅱ（発達障がいがある子どもの支援）	5
障がいがある人の理解と支援実習	6

他者との関係構築

援助的人間関係の基礎	7
医療現場で活用できる英語	8
文章表現探究	9
情報リテラシー	10

分野「自分を育てる」

看護の土台

看護のためのコミュニケーション	11
看護関係法規	12
看護のための教育学	13
看護学概論	14
看護に共通する技術	15
日常生活行動を支える技術Ⅰ（食べる・排泄する）	16
日常生活行動を支える技術Ⅱ（清潔・移動・休息）	17
治療過程にある対象者を支える技術Ⅰ（症状・経過）	18
治療過程にある対象者を支える技術Ⅱ（治療・処置）	19
看護プロセスのための基礎	20
ヘルスアセスメント	21
看護と倫理	22
看護におけるマネジメント	23
医療安全	24
基礎看護学実習Ⅰ	25
基礎看護学実習Ⅱ	26

自己の発展

思考の基盤	27
キャリアマネジメントⅠ	28
キャリアマネジメントⅡ	29
専門職業人としての接遇	30

分野「看護の対象の理解」

人のくらしの理解

文化と生活	31
看護のための人間理解	32
家族看護論	33
公衆衛生	34
社会保障	35
社会福祉	36
地域でくらす人を支えるしくみ	37
地域・在宅でくらす人への看護	38
災害に備えるくらしと看護	39
成人看護学概論	40
老年看護学概論	41
小児看護学概論	42
母性看護学概論	43
精神看護学概論	44
地域・在宅でくらす人を支える看護実習	45
地域・在宅で療養する人を支える看護実習Ⅰ（在宅復帰に向けた看護）	46
地域・在宅で療養する人を支える看護実習Ⅱ（在宅での看護）	47
子ども看護実習Ⅰ（子どもの支援）	48

健康の理解

解剖生理学Ⅰ（細胞と動くしくみ）	49
解剖生理学Ⅱ（消化吸収と神経）	50
解剖生理学Ⅲ（呼吸と循環）	51
解剖生理学Ⅳ（内部環境の調整）	52
生命維持に必要な栄養のはたらき	53
病理学	54
疾病と治療Ⅰ（呼吸循環機能障害）	55
疾病と治療Ⅱ（栄養代謝障害）	56
疾病と治療Ⅲ（内部環境・生体防御機能障害）	57
疾病と治療Ⅳ（運動・感覚機能障害）	58
侵襲的治療Ⅰ（がんの治療）	59
侵襲的治療Ⅱ（手術療法）	60
臨床薬理学	61
微生物と感染症	62
高齢者の健康生活と支援	63
子どもの発達と支援	64
こころの健康と支援	65

分野「看護の理解と創造」

看護の理解

地域・在宅で療養する人への看護Ⅰ（多職種との連携）	66
地域・在宅で療養する人への看護Ⅱ（発達段階）	67
クリティカルケアを必要とする人への看護	68
生活の再構築を必要とする人への看護	69
セルフマネジメントを必要とする人への看護	70
緩和ケアを必要とする人への看護	71
高齢者の健康障害と看護	72
子どもの健康障害と看護	73
命をはぐくむしくみと看護	74
健康障害がある母子への看護	75
精神障がいがある人への看護	76
クリティカルケア実習	77
セルフマネジメント看護実習	78
療養生活を支える看護実習	79
命をはぐくむ人への看護実習	80
精神看護学実習	81

看護の創造

看護に活かす病態生理	82
看護に活かす疾病と治療	83
研究的思考と看護理論	84
看護研究の実際	85
日常生活行動を支える技術評価	86
在宅での医療管理と看護	87
成人の健康レベルに対応した看護プロセス	88
高齢者の療養生活を支える看護プロセス	89
子どもを支援するための看護プロセス	90
命をはぐくむ人への看護プロセス	91
精神に障がいがある人を支える看護プロセス	92
国際・災害看護	93
看護のマネジメント実習	94
看護の統合実習	95

分野「人を敬う」

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	人を敬う	領 域	敬天愛人		分 野	基礎分野	領 域	人間と生活・社会の理解
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	医療福祉の心 講義・15 時間・1 単位			教員名	新谷 義和 他			
ね ら い	旭川荘の設立理念である「敬天愛人」について学び、疾病や障害の有無に関係なく、あらゆる人の尊厳や人権を尊重した医療福祉の心を理解し、感性を磨く。							
授 業 内 容	1. 旭川荘の沿革と概要① 旭川荘設立理念について 「敬天愛人」について学ぶ 2. 旭川荘の沿革と概要② 旭川資料館、敬愛館見学 3. 障がいのある人の理解① 重症心身障害者の理解 4. 障がいのある人の理解② 身体障がい者の理解 5. 障がいのある人の理解③ 知的障がい・発達障がい者の理解 6. 障がいがある方の自立支援について 7. } ふれあい実習（愛育寮・旭川学園・いづみ寮） 8. }							
評 価 方 法	1. 出席点 2. 各授業終了後には、学んだ内容についてレポートする。 3. 全講義終了後「医療福祉にたずさわる専門職業人として自身の目指すもの」についてレポートする。							
テ キ ス ト	必要時資料配布							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	人を敬う	領 域	敬天愛人	分 野	基礎	領 域	科学的思考 の基盤	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	人権と倫理 講義・30 時間・1 単位			教員名	柴岡 元			
ね ら い	「世界人権宣言第 1 条」では「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。」とうたわれている。また、日本国憲法の特徴の一つは「基本的人権の尊重」である。看護職はもちろんのこと、どのような職業にあっても、民主主義の基本原則を学び、これを実践していくことは重要である。一方、「倫理」は法律や条例のような公的な権力による強制力はないが、人間として恥じることのない品格や善悪の判断力・道徳心を備えた内面的な規範である。 「倫理」や「道徳」に基づいた様々な行為は、思想・文化・宗教などを異にした人々の間では必ずしも普遍的な正当性を持つとは限らないし、ましてや今日の国際化の時代においてはなおさらである。このため、価値観の多様性を認めながらも、普遍的な「人間の尊厳」を尊重するための合理的な根拠や原則を学び、高い専門性と倫理性を備えた看護者の養成が求められる。 人権感覚にすぐれ、豊かな倫理性を身につけるためには、先ず何よりも社会人として幅広い知識と教養が必要である。そして知識や教養が知恵となり良識や見識となって、「社会人基礎力」を身につけることが求められる。昨今の高度な科学技術（テクノロジー）の進展に伴って、生命科学や情報化の進展が著しいが、こうした大きく変容する現代社会にあって、看護者の「看護倫理」は極めて重要な意味をもっている。							
授 業 内 容	本授業では、「人間と倫理」を幅広く理解し身につけるために次のような項目について講義する。 1. 現代社会において日々生起する様々な出来事のなかから、人権・医療や社会福祉・科学技術などにかかわる新聞記事を取りあげ、毎時 15 分程度かけてその内容を解説し、意見や感想を求めながら理解を深める。 2 日本国憲法の「基本的人権の尊重」について理解する。 3. 「社会人基礎力」について学ぶ。社会人としての常識や教養、礼儀・マナー、コミュニケーションの基礎などについて幅広く学習する。 4. 対人関係の基礎と自己理解や自己実現について考える。学べき偉人として、神谷恵美子、石井十次、フランクル、シュバイツァー、マザーテレサらを取りあげ、人間の尊厳、偏見の除去、使命感、生き甲斐などについて理解を深める。 5. 「生き方・在り方」について、10 人程度の思想家を取り上げ、その「名言・格言」について学ぶ。 6. 高度高齢社会の課題を取りあげるとともに、生命科学の発達と「生命倫理」の概要についてふれる。							
評 価 方 法	1. 作文と筆記試験 2. 出席点を加味する							
テ キ ス ト	資料配布							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	人を敬う	領　域	敬天愛人		分　野	基礎	領　域	科学的思考 の基盤
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	障がいがある人の理解と支援 講義・30 時間・1 単位			教員名	岡　麻由子			
ね　ら　い	重症心身障害児者を理解し、かけがえない命への畏敬や対象者への尊厳や倫理、ノーマライゼーション、社会参加への理解、QOL の向上のための看護を学ぶ。また、多職種と連携し、保健医療福祉チームのなかの一員としての看護の役割を学ぶ。							
授　業　内　容	1. 重症心身障害児者の歴史・概念・尊厳 2. 障害に関する法律 3. 重症心身障害児者の成長発達・発達の捉え方 4. コミュニケーションの特徴と障害への対応 5. 摂食機能障害の特徴・食事援助の方法・口腔ケア 6. 日常生活と QOL 7. 家族への看護について 8. 対象児者の看護を体験し、看護の役割を学ぶ。							
評　価　方　法	1. レポート課題							
テ　キ　ス　ト	必要に応じ資料提示							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	人を敬う	領　域	敬天愛人		分　野	基礎	領　域	科学的思考 の基盤
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	障がい者福祉 講義・15 時間・1 単位			教員名	赤木　剛			
ね　ら　い	「障害者白書」によると、日本国民の約 8 % 弱の人が何らかの障がいを持っていると言われている。さらに、障がいを「環境とのやりとりの中で何らかの不全を抱えている状態」と捉えるならば、支援が必要な人の割合はもっと高くなる。それは無視をしてもよい割合ではなく、様々な「生活のしづらさ」を抱える人たちを含めずに社会は成り立たない。ノーマライゼーションやインクルージョンの概念に基づき、誰もが取り残されない社会の実現のためにはどのような支援が必要か、幅広く学んでいく。							
授　業　内　容	第 1 講「障がいとは何か？」 障がいとは何かについて、「環境との相互作用」の観点から理解していく。国際機能分類（ICF）や、各法律にみる「障がい」の定義について学んでいく。 第 2 講「障がい者福祉の理念」 障がい者福祉を支える各理念をみていく。ノーマライゼーション、インクルージョン、障害者権利条約などについて学んでいく。 第 3 講「障がい者福祉制度の変遷」 1997 年からの障害福祉基礎構造改革を経て、障がい者に対する支援が一元化されるようになった。また、障がいの概念も広がってきている。障がい者福祉制度の変遷について学んでいく。 第 4 講「障がい者福祉を支える現在の法体系」 現在、障がい者の生活を支える制度、法律をみていく。障害者虐待防止法、障害者差別解消法、障害者総合支援法などについて学んでいく。 第 5 講「障がいの概念の広がりについて」 私たちには、他者が抱えている「生活のしづらさ」に共感し、それに対してどれだけ配慮・支援ができるのかが問われている。発達障害を中心に、「理解をすることと支援をすること」について学んでいく。 第 6 講「障がい者福祉の関連施策」 支援が必要な人の生活を総合的に支える「ケアマネジメント」の考え方を通じて、障がい者の生活とその支援について学んでいく。 第 7 講「障がいに対するまなざしと支援者のこころ」 現代でも障がいに対するステレオタイプの差別意識が払拭されているとはいえない。障がい者をどのような視点で、どのような倫理観をもって支援をすべきか、一緒に考えていく。							
評　価　方　法	1．終講試験のみで評価 100 点満点							
テ　キ　ス　ト	社会保障・社会福祉　医学書院 必要に応じ資料提示							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	人を敬う	領　域	敬天愛人		分　野	専　門	領　域	小児看護学
年次・学期	3 年次・前後期			担当科	看護学科			
科　目　名	子ども看護実習Ⅱ (発達障がいがある子どもの支援) 実習・40 時間・1 単位			教員名	賀川　奈美			
ね　ら　い	発達障害がある子どもとの関わりをとおして、一人ひとりの特性に応じた関りの重要性和、家族への支援の必要性を看護の視点から学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。							
授　業　内　容	子ども看護実習Ⅱ（発達障がいがある子どもの支援） 発達障害児が通園し、日常生活における基本的動作の指導、独立自活に必要な知識技術を身につける施設において子どもとの関わりをとおして特性に合わせた療育の必要性を学ぶ。また、家族への支援の必要性を理解する。 1）発達障がいがある子どもの理解 2）個々の発達状況に合わせた支援 3）発達障害をもつ家族への支援の理解 実習場所 くわのみどりの家またはみどり学園 事前オリエンテーション：2 時間学内 月～木 4 日間：32 時間臨地（8:30 ～ 15:15　昼 45 分） 金：6 時間学内（10:40 ～ 16:10 講義時間に準じる）							
評　価　方　法	・ 学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・ 合否の可否は審議し、決定する。							
テ　キ　ス　ト	実習要項 小児看護概論・小児臨床看護総論　医学書院 小児臨床看護各論　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系				指定規則			
分 野	人を敬う	領 域	敬天愛人	分 野	専 門	領 域	看護の統合と実践
年次・学期	1 年次・前期・後期			担当科	看護学科		
科 目 名	障がいがある人の理解と支援実習 実習・30時間・1単位 80 2			教員名	植木 敦子		
ね ら い	重度の身体的・精神的な障害がある人の命と人権を守り、対象者の尊厳を理解し、よりよく生活するための看護の特徴を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。						
授 業 内 容	身体的・精神的に重度の障害がある人は、自分自身で命を守り、感情や考えを表現することが困難である。看護者は基本的な欲求が安全・安楽に満たされるように支援し、わずかな変化から意思決定をとらえ、人権や尊厳を守りながら充実した日々が送れるように支援する役割があることを学ぶ。 実習場所 旭川荘療育・医療センター 事前オリエンテーション：2 時間学内 月～木 4 日間：32 時間臨地（8:30 ～ 15:15 昼 45 分） 金：6 時間学内（10:40 ～ 16:10 講義時間に準じる）						
評 価 方 法	・ 学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・ 合否の可否は審議し、決定する。						
テ キ ス ト	在宅看護論 医学書院 社会福祉 医学書院 重症心身障害療育マニュアル 医歯薬出版 重症心身障害児のトータルケア 新しい発達支援の方向性を求めて へるす出版						
備 考							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	人を敬う	領 域	他者との関係構築	分 野	基礎	領 域	科学的思考 の基盤	
年次・学期	1 年次・前期・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	援助的人間関係の基礎 講義・30 時間・1 単位			教員名	花房 香・鈴木 晶子			
ね ら い	自分自身の傾向やコミュニケーションのあり方を把握し、自己分析し理解する。さらに看護師として援助者自身及び対象者の心理について学び、援助的人間関係の基礎能力を身につける。							
授 業 内 容	花房（15 時間） 1. 人間関係の理解 2. 自己認知・アンガーマネジメント 3. 対人認知 4. 対人関係と葛藤 5. 態度と態度変化 6. 援助行動 7. 集団と個人 8. 中間試験 鈴木（15 時間） 9. エリクソンの発達課題 10. 乳幼児期の人間関係 11. 児童期・青年期における人間関係 12. 成人期・高齢期における人間関係 13. 児童虐待 14. アディクションと共依存 15. 対象喪失と悲嘆 16. 終講試験							
評 価 方 法	中間試験（100 点）終講試験（100 点）で実施、最終的に平均点で評価							
テ キ ス ト	人間関係論 医学書院 新看護心理学 ナカニシヤ出版							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	人を救う	領 域	他者との関係構築	分 野	基礎	領 域	人間と生活・社会の理解	
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	医療現場で活用できる英語 講義・30 時間・1 単位			教員名	宮宅 由美子			
ね ら い	病気やケガで病院を訪れる外国人とのコミュニケーションを円滑にするための会話を中心に、各場面における医療用語や表現を活用できる能力を養う。 さらに、将来、臨床の現場で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることを目的とする。							
授 業 内 容	1. Introduction 2. Chapter 1 Welcoming a Patient 3. Chapter 2 Taking Vital Signs 4. Chapter 3 Pain Assessment 5. Chapter 4 Feeling So Sick 6. Chapter 5 Transferring a Patient 7. Chapter 6 Medical Departments 8. Chapter 8 Personal Care 9. Chapter 9 Giving Medication to a Patient 10. Chapter 10 Elimination (Bowel movement / Urination) 11. Chapter 11 Chronic Diseases 12. Chapter 12 Critical Care / Operating Room 13. Chapter 13 Pregnancy Check-up 14. Chapter 7 & 14 Review							
評 価 方 法	1. 試験 2. 出席点、授業態度、提出物 3. 発表点、小テスト他							
テ キ ス ト	Taking with Your Patients in English SEIBIDO（成美堂）							
備 考								

教育課程独自体系				指定規則			
分　　野	人を敬う	領　域	他者との関係構築	分　野	基礎	領　域	科学的思考 の基盤
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科		
科　目　名	文章表現探究 講義・30 時間・1 単位			教員名	廣本　勝裕		
ね　ら　い	様々な形態の文章を題材に、「話す・聞く・書く・読む」の総合的な言語活動を通じて、文章の表現力と理解力を高めることを目的とします。☆印の時間は、特に、他者への理解を深め、伝え合う力を伸ばすことに配慮します。						
授　業　内　容	1. 科目のオリエンテーション 「これまでの国語学習を振り返り、『文章表現探究』の学習内容を把握しよう。」 2. 表現と理解の基礎（１） 「日本語の成り立ちと特徴に基づいて、表現と理解の基本を確立しよう。」 3. 表現と理解の基礎（２） 「漢字・仮名・その他の記号などの表記の原則を確認しよう。」 4. 適切に表現し理解するために（１） 「音声言語と文字言語の特長を生かし、表現と理解の向上を図ろう。」 5. 適切に表現し理解するために（２） 「構成を工夫し、根拠や論拠を明確にして自分の意見を展開しよう。」 ☆ 6. 適切に表現し理解するために（３） 「情景や心情の描写を取り入れながら、自分の思いを随筆に表現しよう。」 7. 表現と理解を広げるために 「語句・語彙（熟語、慣用句、故事成語、同音異義語等）を豊かにしよう。」 8. 表現と理解を確かにするために 「表現技法（修辭法）を活用し、叙述や描写の精度を高めよう。」 ☆ 9. 表現と理解を高めるために 「推敲や校正の作業を通じて、文章力の向上を図ろう。」 10. 敬語法の理解と敬語表現の実践 「相手や場面を念頭に置いた敬語の適切な使い方を習得しよう。」 11. 各種の情報の理解をもとにした表現の展開 「統計や調査結果等の資料を分析・検討して、感想や意見をまとめよう。」 ☆ 12. 様々な文章形態の表現と理解（１） 「短編小説を読んで、感想をまとめるとともに、その短編小説の続きを考えよう。」 13. 様々な文章形態の表現と理解（２） 「形式を整え、相手の心に響く手紙を書こう。」 14. 様々な文章形態の表現と理解（３） 「正しくわかりやすく伝えるための告知の表現を工夫しよう。」 ☆ 15. まとめの学習 「『文章表現探究』の学習を振り返り、成果と課題を確認しよう。」						
評　価　方　法	◎各授業で取り組んだ課題の提出状況 ◎第 15 時間目の「まとめの学習」の達成状況						
テ　キ　ス　ト	○授業ごとに配付するプリントを基本テキストとして授業を行います。						
備　考	○授業には、「国語辞典（電子辞書）」（※現在持っているものでよい）を持参してください。 ○授業で用いた教材・資料を保存し活用するための「フラットファイル」（厚さ 1.5cm 程度の標準的なものでよい）を 1 部用意してください。						

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	人を敬う	領 域	他者との関係構築	分 野	基礎	領 域	人間と生活・社会の理解	
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	情報リテラシー 講義・演習・30 時間・1 単位			教員名	渡邊 佳代・三上 史哲			
ね ら い	保健・医療分野におけるコンピューター化の波は著しく、電子カルテシステムなど病院情報システムの導入に伴い、看護業務にもコンピューターを活用する時代となった。 そこで、本講義では ICT（情報通信技術）の活用をととして、膨大な情報から適切かつ正確な情報を選択、判断するための基礎的能力を身につけるために、医療における情報とは何かを学び、実際にパソコンを使用しながら医療現場で発生する情報の収集、加工、分析を行い、その情報を発信するための資料作成を行う。							
授 業 内 容	1. 「保健医療と情報」、「情報倫理と医療倫理」 ・医療における情報とエビデンス情報に基づいた保健医療 ・医療における情報倫理と守秘義務、医の倫理に関する歴史 2. 「患者の権利と情報」、「個人情報の保護」 ・患者の権利と自己決定への支援、診療情報の開示 ・医療看護における個人情報、情報の利用の仕方 3. 「コンピューターリテラシーとセキュリティ」 ・コンピューター・インターネットのしくみとセキュリティ ・パソコンの基本操作とタッチタイピング 4. 「看護と情報」、「医療における情報システム」 ・看護における情報、病院情報システムと記録の仕方 5. 「調査によるデータ収集方法」 ・調査を実施してデータを収集する。 ・表計算ソフト MicrosoftExcel の概要（表計算、計算・関数、グラフ作成） 6. 「Excel による統計解析 1」 ・MicrosoftExcel の分析ツールを用いて基本統計量を求める。 7～8. 「Excel による統計解析 2」 ・MicrosoftExcel のピボットテーブルを用いて分割表、グラフを作成する。 9. 「表計算ソフトによる文章作成」 ・MicrosoftExcel を用いてクリニカルパスを作成する。 10. 「既存の情報の収集方法」 ・インターネットによる情報収集 11～13. 「文字情報の整理」 ・MicrosoftWord を用いて報告書を作成する。 14～15. 「情報の発表とコミュニケーション」 ・MicrosoftPowerPoint の基本操作 ・MicrosoftPowerPoint を用いて報告書の内容を発表用スライドに加工する。							
評 価 方 法	1. 受講態度、出席日数 2. レポート、学期末試験							
テ キ ス ト	看護情報学 医学書院 プリント配布							
備 考	USB メモリを用意してください。							

分野「自分を育てる」

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台	分 野	基礎	領 域	科学的思考 の基盤	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	看護のためのコミュニケーション 講義・30 時間・1 単位			教員名	鈴木 晶子・大森 和子			
目 的	コミュニケーションの原則や技術、カウンセリングの基本の技術について理解し、専門的なコミュニケーションをとおして看護の対象となる人々と適切で援助的な関係形成を構築できる力を身につける。							
授 業 内 容	1. コミュニケーションとは（種類、効果）（15 時間鈴木）人間関係論第 1 ～ 6 章 2. ICT の発達とコミュニケーション 3. アサーティブコミュニケーション 4～5. 援助者としての態度 （5 つの態度、バ이스ティック、聴く・聴かない演習） 6～7. 心理療法の理論とスキル （クライアント中心、精神分析、認知行動、ブリーフなど） 8. 看護者としての専門的なコミュニケーションとは（15 時間大森） 9. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 10. 看護者としての専門的なコミュニケーションの実際 11. 関係構築のためのコミュニケーションの基本（接近的行動など）、 12. 効果的なコミュニケーションの実際、コーチング 13. 各発達段階の対象者による言葉かけの違いの実際（こども、高齢者… 14. 各時期での苦痛（身体的・精神的・急激な変化への家族への声かえなど）							
評 価 方 法	終講試験（50 点ー 50 点）							
テ キ ス ト	人間関係論 医学書院、 基礎看護技術 I 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台	分 野	専門 基礎	領 域	健康支援と 社会保障制度	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	看護関係法規 講義・15 時間・1 単位			教員名	藤田 有香			
目 的	看護専門職者として、業務を遂行するために必要となる法規について基本的な知識を習得する。							
授 業 内 容	I 法の概念 1. 法の概念 2. 法の分類 3. 衛生に関する法 II 医事・医療関連法規 1. 医事法・医療法：医師法・医療法 2. 医療関連資格法：保健師助産師看護師法等 3. 保健福祉関係資格法：PT 法・OT 法等 III 薬務法 1. 医薬品：薬事法 等 2. 毒物等：毒物及び劇物取締法、麻薬及び向精神薬取締法 等 IV 労働法と社会基盤・個人情報保護 1. 労働に関する法 2. 社会基盤のための法 3. 個人情報保護に関する法							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 出席状況等							
テ キ ス ト	看護関係法令 医学書院 主に配布資料							
備 考								

教育課程独自体系				指定規則			
分　　野	自分を育てる	領　域	看護の土台	分　野	基礎	領　域	科学的思考 の基盤
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科		
科　目　名	看護のための教育学 講義・30 時間・1 単位			教員名	檜原　靖		
目　　的	本講は、教育学の基礎理論の学習を通して、支援者としての看護師活動の一助となる事を目指し、その資質・能力を養う。 ①教育の営みと人の発達を理解する。②学習・指導・評価そしてその工夫 ③看護師としてのキャリア開発のための学習、という 3 つの視点から講義を行う。						
授　業　内　容	単元Ⅰ　オリエンテーション 1.　なぜ看護師をめざすのに「教育学」が必要なのか？ ――教育的支援者としての看護師―― 2.　教育は人類に何をもたらしたのか？ ――教育とは？教育の発生と果たす役割―― ――生物の遺伝、著作「エミール」（ルソー）、生理的早産説（ポルトマン）―― 単元Ⅱ　人の発達過程の理解 3.　人の発達段階と発達課題 ― 一般的な発達を知り、各支援に生かす―― 4.　認知・自己の発達・対人関係の発達について ――認知能力の発達（ピアジェ）自己意識の発達（エリクソン）対人関係：社会化―― ――ホスピタリズムと愛情形成―― 単元Ⅲ　学習についての理解 5.　人はどのように学習するのか？ ――学習の領域 知識（認知的領域）技能（精神運動的領域）態度（情意的領域）―― 6.　学習意欲を高める技法とは？ ――学習の動機づけの基本原理　外発的動機づけと内発的動機づけ―― 単元Ⅳ　指導についての理解 7.　指導者の役割とは？ ―指導者の姿勢と 6 つの役割―― 8.　計画的な指導とは？ ―わかりやすい学習目標（RUMBA によるチェック）―― 単元Ⅴ　評価についての理解 9.　評価の役割とは？ ―評価の構成要素、評価主体・評価基準・評価時期―― 10. 効果を高める工夫とは？ ―目標に適した評価の選択―― 単元Ⅵ　効果的な指導と学習について 11. 指導に役立つコミュニケーション技術とは？ ――ラポール状態　傾聴　アサーション　非言語的コミュニケーション　発問　指示―― 12. 学習を深めるディスカッションの技法とは？ ――ディスカッションの教育的意義と協同学習（バズ学習、シンク・ペア・シェア）―― 単元Ⅶ　看護師としての学習とキャリア開発 13. 看護師としての学習とは？ 14. 看護師としてのキャリア開発とは？ 15. まとめ						
評　価　方　法	1.出席点　　2.講義内レポート　　3.テスト						
テ　キ　ス　ト	必要に応じて資料を配布。（A4　2 穴ファイルを用意しておいてください）：マーカー						
備　　考							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台		分 野	専 門	領 域	基礎看護学
年次・学期	1 年次・通年			担当科	看護学科			
科 目 名	看護学概論 講義・30 時間・1 単位			教員名	双田 清美・定金 直美			
目 的	看護の対象となる人は、年齢や育った環境、価値観や人生観など一人ひとり異なる。その対象者に応じた看護を提供するためには、様々な知識、判断力、看護実践力が必要となる。 また、看護師として問い続けるであろう「看護とは何か」また、「看護師とはどのような職業なのか」を探究し、看護師を志す者としての看護の考え方や姿勢、看護の機能と役割について学ぶ。							
授 業 内 容	「看護とは何か」について探究的に学ぶ。(15 時間・双田) 1. 看護にとっての観察の重要性を理解する。 2. 提示されたパフォーマンス課題の解決に向けて 「人間」「健康」「環境」「生活」「看護」の概念を理解するための視点を学ぶ。 3. フローレンス・ナイチンゲール、バー ジニア・ヘンダーソンの看護の考え方を理解し、「看護」とは何かを考える。 4～6. 「人間」「健康」「環境」「生活」について理解し、課題解決に向けて考える。 7. パフォーマンス課題で作成した資料を相互に評価し、看護の視点を広げる。 8. 中間試験 「看護師とはどのような職業なのか」について探求的に学ぶ。(15 時間・定金) 9. 専門職としての看護教育制度の理解 10. 専門看護師、認定看護師制度の設立目的や内容理解 11. 保健師助産師看護師法から看護師の定義や業務内容や範囲の理解 12. 診療の補助行為としての特定行為制度の理解 13. 介護福祉士や他の医療関係職の業務内容の理解 14～15. パフォーマンス課題「看護はなぜ専門職といえるのか」について各自まとめる。 16. 終講試験							
評 価 方 法	1. 中間試験・終講試験 2. 出席状況							
テ キ ス ト	看護学概論 医学書院 ナイチンゲール看護覚え書 現代社 ナイチンゲールの看護の覚え書 西東社 ヘンダーソン看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 よくわかる看護者の倫理綱領 照林社							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台	分 野	専 門	領 域	基礎看護学	
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	看護に共通する基本技術 講義・演習 30 時間・1 単位			教員名	岩本 美代子・山下 純子			
目 的	看護実践に共通する基本的知識と技術を身につける。							
授 業 内 容	1. 看護技術を学ぶにあたって ・コミュニケーション ・関係構築のためのコミュニケーション 2. 安全・安楽について ・安全・安楽の視点の重要性と責任 3～6. 安全・安楽について ・感染防止 ・感染防止倫理 7. 看護技術における倫理の必要性 8. 看護援助における環境調整 9. 演習：ベッドメイキング・リネン交換 10. 演習：臥床患者のリネン交換 11. グループワーク（対象者にとっての快適な療養環境とは） 12. プレゼンテーション 13. ボディメカニクスを保つための姿勢と動作 14. 演習：体位変換、ポジショニング 15. 終講試験							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 校内演習態度 3. 事前学習への取り組み、提出状況							
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台		分 野	専 門	領 域	基礎看護学
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	日常生活行動を支える技術Ⅰ (食べる・排泄する) 講義・30 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目 的	看護の視点から人間にとっての「食べる・排泄する」をとらえ、対象の日常生活行動を支えるための知識・技術・態度・倫理的判断を身に付ける。							
授 業 内 容	1. 食べることへの援助技術 ・ 食べることの意義と看護の視点 ・ 栄養状態や摂食能力のアセスメント 2. 食事の種類と形態 ・ 食べる姿勢と食べやすさ 3. 演習：食事介助 4～5. グループワーク（対象者の状況に合わせた食事援助について） 6～7. プレゼンテーション 8. 排泄することへの援助技術 ・ 排泄の定義とメカニズム ・ 排尿・排便秘動動作のアセスメント 9. 自然排尿および自然排便をうながす援助 ・ 排泄姿勢と排泄のしやすさへの援助 10. 演習：床上排泄援助（便器・尿器） 11. 演習：床上排泄援助（おむつ交換） 12～13. グループワーク（対象者の状況に合わせた排泄援助について） 14. プレゼンテーション 15. 終講試験							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 校内演習態度 3. 事前学習への取り組み、提出状況							
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅱ 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	自分を育てる	領　域	看護の土台		分　野	専　門	領　域	基礎看護学
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	日常生活行動を支える技術Ⅱ (清潔・移動・休息) 講義・30 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目　　的	看護の視点から人間にとっての「清潔（更衣含む）にする、移動する、休息する」をとらえ、対象者の日常生活行動を支えるための知識・技術・態度・倫理的判断を身に付ける。							
授　業　内　容	1. 活動と休息を支える技術 日常生活における活動と休息・移動動作のアセスメント・休息への援助 2. 移乗、移送を支える援助技術 演習：車いすへの移乗・移送 3. 移乗、移送を支える援助技術 演習：ストレッチャーへの移乗・移送 4. 清潔にすることへの援助技術 心地よい清潔ケアへの配慮 5. 衣生活と身だしなみの援助 演習：臥床患者の寝衣交換、麻痺のある患者の寝衣交換、 点滴・ドレーンなどを留置している対象者への寝衣交換（和式寝衣、セパレートタイプ） 6～7. 身体の清潔への援助 演習：全身清拭（陰部洗浄含む） 8～9. 頭皮・頭髮の清潔への援助 演習：洗髪（洗髪車・ケリーパッド） 10～11. 部分浴への援助 演習：足浴・手浴 12. グループワーク（対象者へ安全、安楽な清潔援助を実施について） 13. プレゼンテーション 14. 看護師はおこなう清潔援助の意義について 15. 終講試験（筆記試験）							
評　価　方　法	1. 終講試験 2. 校内演習態度 3. 事前学習への取り組み、提出状況							
テ　キ　ス　ト	基礎看護技術Ⅱ 医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台	分 野	専 門	領 域	基礎看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	治療過程にある対象者を支える技術Ⅰ (症状・経過) 講義・30 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目 的	看護の視点から、主要な症状・経過をとらえ、健康問題に対する適切な医療支援技術を提供するための知識・技術・態度・倫理的判断を身につける。							
授 業 内 容	回数	授業内容（主題）				備考		
	1	排泄困難がある対象者への看護 排尿困難がある対象者への援助技術 技術内容： 導尿						
	2	排尿困難がある対象者への援助技術 技術内容： 導尿						
	3	排尿困難がある対象者への援助技術 技術内容： 導尿						
	4	排便困難がある対象者への援助技術 技術内容： 浣腸						
	5	排便困難がある対象者への援助技術 技術内容： 浣腸						
	6	呼吸困難のある対象者への看護 酸素療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：中央配管式						
	7	酸素療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：中央配管式						
	8	酸素療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：酸素ボンベ						
	9	吸引・吸入を必要とする対象者への援助技術 技術内容：口腔						
	10	吸引・吸入を必要とする対象者への援助技術 技術内容：鼻腔						
	11	吸引・吸入を必要とする対象者への援助技術 技術内容：気管						
	12	経口摂取困難のある対象者への看護 経管栄養を必要とする対象者への援助技術 技術内容：経管栄養						
	13	経管栄養を必要とする対象者への援助技術 技術内容：胃ろう						
	14	体温調節が必要な対象者への看護 体温調整を必要とする対象者への援助技術 技術内容：冷・温罨法						
	15	終講試験						
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 学内演習態度 3. レポート							
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 臨床看護総論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台		分 野	専 門	領 域	基礎看護学
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	治療過程にある対象者を支える技術Ⅱ (治療・処置) 講義・30 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目 的	看護の視点から、治療・処置をとらえ、健康問題に対する適切な医療支援技術を提供するための知識・技術・態度・倫理的判断を身につける。							
授 業 内 容	回数	授業内容（主題）				備考		
	1	検査に伴う看護 検体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容：						
	2	生体検査を受ける対象者への援助技術 技術内容：						
	3	治療に伴う看護 薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：						
	4	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：						
	5	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：						
	6	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：						
	7	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：						
	8	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：						
	9	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：						
	10	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：						
	11	薬物療法が必要な対象者への援助技術 技術内容：						
	12	治療・処置に伴う看護 創傷処置を必要とする対象者への援助技術 技術内容：無菌操作						
	13	創傷処置を必要とする対象者への援助技術 技術内容：						
	14	創傷処置を必要とする対象者への援助技術 技術内容：						
	15	終講試験						
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 学内演習態度 3. レポート							
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 臨床看護総論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台	分 野	専門	領 域	基礎看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	看護プロセスのための基礎 講義・15 時間・1 単位			教員名	山下 純子			
目 的	科学的根拠にもとづく看護実践をおこなうための看護の思考プロセスを学ぶ。 看護の視点で対象をとらえ、必要な援助を見極め、看護実践するための問題決力や科学的に思考する力を身に付ける。							
授 業 内 容	1. 看護過程展開の技術 看護過程の基盤となる考え方 ・問題解決過程 ・クリティカルシンキング ・倫理的配慮と価値判断 ・リフレクション 2～5. 看護過程の展開 看護過程の構成要素 アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価 6. 対象者の全体像の把握 関連図について 7. 看護記録について 看護記録とは 記載、管理における留意点 8. 終講試験（筆記試験）							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 課題							
テ キ ス ト	基礎看護学技術Ⅰ 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台		分 野	専 門	領 域	基礎看護学
年次・学期	1 年次・前期後期			担当科	看護学科			
科 目 名	ヘルスアセスメント 講義・30 時間・1 単位			教員名	有松 実里			
目 的	身体的・精神的・社会的視点から総合的に健康の状態をアセスメントし、フィジカルアセスメントをおこなうためのフィジカルイグザミネーション技術を身に付ける。							
授 業 内 容	回数	授業内容（主題）			事前課題			
	1	ヘルスアセスメントとは ・問診の技術			・身体計測（身長・体重・腹囲） の実際について			
	2	・身体計測（身長・体重・腹囲）			・問診の目的と実際について			
	3	バイタルサインの測定 ・体温・脈拍・呼吸			・体温・脈拍・呼吸とは ・実際の 方法 ・正常値、異常			
	4	バイタルサインの測定 ・血圧			・血圧とは・血圧測定の実 際；触診法・聴診法 ・正常・異常 ・意識レベ ルの観察の実際 ・GCS と JCS について			
	5	・意識						
	6	呼吸器系のフィジカルア セスメント			・呼吸音の聴診の実際 ・呼吸音の正常・異常、 症状、徴候 ・経皮的動脈酸素飽和度			
	7	・呼吸音の聴診 ・経皮的動脈酸素飽和度						
	8	腹部のフィジカルアセ スメント			・腹部聴診の実際 ・腸蠕 動音の正常・異常 ・自覚症状			
		・腹部の聴診						
	9	循環器系のフィジカルア セスメント			・心音の聴診の実際 ・自 覚症状、正常・異常 ・対光反射の実際、正常・ 異常			
		・心音の聴診 脳神経のフィジカルアセ スメント						
		・瞳孔反射						
	10	紙上事例患者について ・必要な観察項目を考 える（GW）			紙上事例患者の観察項目 について各自で考えてく る（根拠も含む）			
	11	紙上事例患者・観察の実 践（GW）			観察の方法と順番につい て各自で考えてくる（問 診も含む）			
	12	紙上事例患者・観察の実 践（GW）						
	13	プレゼンテーション 発表・ディスカッション			プレゼンテーションでき るように準備しておく （原稿・実践）			
	14	まとめ						
	15	終講試験						
	<授業準備・事前課題について> *事前課題は、テキストを丸写しではなく参考書も活用しながらわかりやすくまとめる。 *事前課題は、A 4 のルーズリーフかレポート用紙にまとめ、表紙をつける。 （ホッチキス左上一か所） *事前課題は、すべて手書きとする。							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 課題提出 3. 出席・授業態度							
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅰ 医学書院							
備 考	参考図書：フィジカルアセスメントがみえる MEDIC MEDIA							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台		分 野	専門	領 域	看護の統合と実践
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	看護と倫理 講義・15 時間・1 単位			教員名	寺岡 仁子			
目 的	看護現場にある倫理的課題に対し、看護師として必要な倫理的判断能力を身につける。本授業では「徳の倫理」「原則の倫理」を中心に①看護の現場に存在する倫理的課題に気づくことができる ②倫理的課題を分析するための手がかりを見つけ出すことができる③倫理的課題の解決のために、看護職としてどうするべきなのかを考えることができるという3点について学ぶ。							
授 業 内 容	Goal 1. 看護倫理の原則を理解できる。 2 看護倫理の問題へのアプローチを考えることができる。							
	回	内容	備考					
	1	講義	看護倫理概論について学習します。南江堂の「看護倫理」を持参してください。					
	2	講義 グループワーク	倫理問題へのアプローチについて学びます。 南江堂の「看護倫理」を持参してください。 2 回目からはグループごとに着席してください。					
	3	グループワーク	グループで事例検討を行い、まとめます。（提出）					
	4	グループワーク						
	5	グループ発表	事例1・事例2・事例3					
	6	グループ発表	事例4・事例5・事例6					
	7	グループ発表	事例7・事例8・事例9					
	8	予備日・まとめ	「看護職の倫理綱領」を開設しながら総まとめをします。最後に授業を終えての学びと感想を書いていただきます。					
	授業内容・事例については9事例こちらで用意します。・グループについてはこちらでランダムに決めております。 ☆発表の流れなど・3～5分間事例と抄録を全員黙読～グループ発表～質疑応答・感想 ・各グループ発表は10分です。単に抄録を読み上げるだけであれば10分にはなりません。グループで考えてください。方法は自由です。・質疑応答、感想の時間も10分です。意見がどうしても出ないときはペアグループの方にあててください。そうならないよう、自主的に（グループ単位でも結構です）お願いします。・1グループ終わるごとに寺岡からもコメントをさせていただきます。							
評 価 方 法	1. 出席状況・授業態度 2. グループワークへの参加状況、提出規則の状況、発表（メイン）など 3. その他 ＊筆記試験は行いません。							
テ キ ス ト	看護倫理 よい看護・よい看護師の道しるべ 南江堂 ＊主に配布資料で進めます。							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	自分を育てる	領　域	看護の土台		分　野	専　門	領　域	看護の統合と実践
年次・学期	3 年次・前後期			担当科	看護学科			
科　目　名	看護におけるマネジメント 講義 30 時間・1 単位			教員名	清水　恵子・宗次　美登里			
目　　　的	看護の対象となる人々に最も良質な看護を提供するしくみを理解し、医療チームの一員としての役割と責任を理解し看護をマネジメントする基礎的能力を学ぶ。 看護の統合と実践実習の中から、看護管理は管理者やリーダーのみがおこなうものではなく、すべての看護師が日々行っている看護実践の中に組み込まれているものであることを学び理解できる。							
授　業　内　容	＜前期＞ 1. 看護のマネジメントについて 2. 看護ケアのマネジメントについて 3. 看護のキャリアマネジメントについて 4. 看護サービスのマネジメントについて 5. マネジメントに必要な知識と技術について 6. 看護を取り巻く諸制度につい 7. 1～6 の講義の内容から試験 ＜後期＞ 看護のマネジメント実習および看護の統合実習から、看護のマネジメントの方法やチームの一員としての役割や多職種との連携など、知識・技術・態度を統合したことを振り返り、学びを深める							
評　価　方　法	1. 終講試験 2. 授業態度 3. 出席状況							
テ　キ　ス　ト	看護管理　医学書院							
備　　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台	分 野	専 門	領 域	看護の統合と実践	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	医療安全 講義・30 時間・1 単位			教員名	岩本 美代子			
目 的	医療・看護が安全に提供されるためには、日常における組織的な事故防止活動と医療事故発生時の対応が最も重要である。看護師の業務における様々な事故の構造と根拠にもとづく具体的な知識により事故を回避し、安全で質の高い看護実践活動を学ぶ。またリスクマネジメントを含んだ看護師の役割を理解する。							
授 業 内 容	回数	授業内容（主題）					備考	
	1	医療安全を学ぶことの意義						
	2	医療事故の定義、医療行為との関連 事故の視点での看護業務の理解						
	3	看護事故の構造、看護事故における事故防止の視点						
	4	看護事故防止の考え方						
	5	KYT による事故防止 演習						
	6	薬物投与する業務における事故防止 総論						
	7	薬物投与する業務における事故防止 輸液ポンプでの事故①						
	8	薬物投与する業務における事故防止 輸液ポンプでの事故②						
	9	チューブ管理と事故防止①						
	10	チューブ管理と事故防止②						
	11	インシデントレポートの目的とその活用						
	12	看護学生の実習と安全対策						
	13	医療安全対策～感染管理の実践について～ 感染管理認定看護師より						
	14	医療安全対策～感染管理の実践について～ 感染管理認定看護師より						
	15	終講試験						
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 提出物							
テ キ ス ト	医療安全 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	自分を育てる	領　域	看護の土台		分　野	専　門	領　域	基礎看護学
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	基礎看護学実習Ⅰ 実習・45 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目　　的	基礎看護学実習Ⅰ―（１）（看護を知る） 看護師とともにできる範囲の実践をととして、看護師がどのように看護を判断し実践しているかを学ぶ。また、看護師の看護への思いを聴くことをととして、看護とは何かについて考え、自分自身の看護に対する考えを明確にする。 基礎看護学実習Ⅰ―（２）（日常生活援助を支える） 対象者の健康状態や入院前の生活習慣を考慮した日常生活援助の実践をととして、看護師がおこなう日常生活援助の意義を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。							
授　業　内　容	基礎看護学実習Ⅰ―（１）（看護を知る）2 日間 看護師とミット実習をおこない、看護師の看護判断や看護の役割について学ぶ。 実習場所：川崎医科大学附属病院または川崎医科大学総合医療センター 実習時間：初日　8 時間臨地 8:30 ～ 15:15（昼 45 分） 2 日目　7 時間臨地 8:30 ～ 14:30（昼 45 分） 基礎看護学実習Ⅰ―（２）（日常生活援助を支える）4 日間 対象者 1 名を受け持ち、日常生活援助の実践をととして、看護師がおこなう日常生活援助の意義を理解する。 実習場所：川崎医科大学附属病院または川崎医科大学総合医療センター 実習時間：月火木 3 日間；72 時間臨地 8:30 ～ 15:15（昼 45 分）							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	看護の土台		分 野	専 門	領 域	基礎看護学
年次・学期	2 10年次・前後期			担当科	看護学科			
科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ (治療過程を支える) 実習・90 時間・2 単位			教員名	看護学科教員			
目 的	対象者の健康状態に応じて観察した結果をもとに、治療、症状、検査などに伴う対象者における状況を判断し、対象者の回復過程を支えるための根拠にもとづいた看護実践を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。							
授 業 内 容	対象者 1 名を受け持ち、看護の思考プロセスの活用をとおして、対象者の回復過程を支える看護を理解する。 実習場所：川崎医科大学附属病院または川崎医科大学総合医療センターまたは 光生病院 実習時間：月火木×3 週（9 日間）：72 時間臨地（8:30～15:15 昼 45 分） 水（3 日間）：12 時間臨地（8:30～11:30 昼 45 分） 金 3 週目：6 時間学内（9:00~14:30）振り返り							
評 価 方 法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い合格は 60 点以上とする。 ・合格の可否は審議し、決定する。							
テ キ ス ト	実習要項 看護学概論 医学書院 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	自己の発展		分 野	基礎	領 域	科学的思考 の基盤
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	思考の基盤 講義・30 時間・1 単位			教員名	山下 純子・定金 直美			
目 的	自ら課題を発見し、主体的に解決策を考えるプロジェクト学習をとおして、看護を科学的に 思考し、臨床判断能力の基礎を身に付ける。							
授 業 内 容	1. 考えるとはどういうことかの理解 クリティカルシンキング 2. 課題発見から解決までの思考プロセス プロジェクト学習法の理解 3. 成長につながるリフレクション 4. リフレクションに必須のスキル 5. リフレクションのトレーニング① 6. リフレクションのトレーニング② 7. リフレクションのトレーニング③ 8. 筆記試験 9. 大切な人の健康を守るためのプロジェクト学習 10. 大切な人の健康を守る生活改善のヒント 11～14. 生活改善の課題発見 15～16. 実施、評価、修正のまとめ・グループでの共有							
評 価 方 法	1. 筆記試験 2. レポート課題							
テ キ ス ト	必要時資料配布							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	自分を育てる	領　域	自己の発展		分　野	基礎	領　域	科学的思考 の基盤
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	キャリアマネジメントⅠ 講義・15 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目　　的	自分の今までのキャリアを振り返ることから自分の強みを認識し、自己肯定や自尊心を高め、自分自身を客観的に理解する手がかりとする。また、自分の将来に展望をもち、自分に合った職業を適切に選択する手がかりを得る。							
授　業　内　容	回数	授業内容（主題）						備考
	1	自分の今までのキャリアを振り返る ・ パーソナルポートフォリオ作成の導入						
	2	自分の今までのキャリアを振り返る ・ パーソナルポートフォリオ発表会①						
	3	自分の今までのキャリアを振り返る ・ パーソナルポートフォリオ発表会②						
	4	看護職としての社会人基礎力を身につける						
	5	看護師を取り巻く社会の状況を知る ・ 就職ガイダンス（学院としての方針）						
	6	自分の適性を理解し、就職のイメージをつける ・ 業者による就職ガイダンス						
	7	自分の適性を理解し、就職のイメージをつける ・ 業者による就職ガイダンス						
	8	1 年間の成長確認、発表会						
評　価　方　法	出席点・提出レポート・講義参加姿勢							
テ　キ　ス　ト	なし							
備　　考	参考文献　鈴木敏恵：「キャリアストーリーをポートフォリオで実現する」，日本看護協会出版社,2015.							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	自己の発展	分 野	基礎	領 域	科学的思考 の基盤	
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	キャリアマネジメントⅡ 講義・15 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目 的	専門職として自己教育力を育成するために、社会人基礎力や自身の看護観を明確にし、看護師になるための自己を高める。							
授 業 内 容	回数	授業内容（主題）					備考	
	1	1 年次を振り返りながら、自己の看護観を明確にする。 1 年次に立てたビジョンゴールを見直しながら、目指す看護師像を明確にする。						
	2	自己の看護観の発表						
	3	看護職としての社会人基礎力を身につける 1 年経過した自分の成長と課題						
	4	看護師を取り巻く社会の状況を知る ・就職ガイダンス（学院としての方針）						
	5	看護師として活躍する卒業生からのメッセージ						
	6	自分の適性を理解し、就職のイメージをつける ・業者による就職ガイダンス（自分に適した就職先をみつける）						
	7	自分の適性を理解し、就職のイメージをつける ・業者による就職ガイダンス（履歴書を書く）						
	8	1 年間の成長確認、発表会						
	評 価 方 法	出席点・提出レポート・講義参加姿勢						
テ キ ス ト	なし							
備 考	参考文献 鈴木敏恵：「キャリアストーリーをポートフォリオで実現する」，日本看護協会出版社，2015.							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	自分を育てる	領 域	自己の発展	分 野	基礎	領 域	人間と生活・社会の理解	
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	専門職業人としての接遇 講義・15 時間・1 単位			教員名	山下 淳子・大林 秀行			
目 的	接遇の原則を身に着け、常に相手の立場にたって考え、対象者が何を望んでいるのかを推察した行動ができる能力を身につける。							
授 業 内 容	1. 専門職として接遇が求められる理由 接遇とは、おもてなしとは 2～3. 挨拶の基本：表情、態度、声のトーン 言葉遣い：丁寧語、謙譲語、尊敬語の理解と実践 4. 身だしなみの意味、3 原則 態度（立ち居振る舞い） 5. 事例から接遇を考える 6～7. 人と人の関わり方 「謙虚さ」「思いやり」「気配り」「心づかい」「感謝」 8. まとめ 講義を通して学んだことを実際の生活でどのように活かすかまとめ、 プレゼンテーションする ※実践演習を含む							
評 価 方 法	出席点、演習姿勢、毎回講義提出レポートを総合して評価をする。							
テ キ ス ト								
備 考								

分野「看護の対象の理解」

教育課程独自体系				指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人とくらしの理解	分 野	基礎	領 域	人間と生活・社会の理解
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科		
科 目 名	文化と生活 講義・30 時間・1 単位			教員名	柴岡 元		
目 的	良き職業人は良き社会人でなくてはならない。多くの患者と接する看護師は、専門的な技量にとどまらず、幅広い知識が必要であり、また何よりも豊かな人間性が求められる。 当学科では、教養を高め深める授業をおこなう。このため授業では、新聞やテレビなどのマスメディアで取り上げられた話題などについて、これを的確に理解できる力を養う。 また、良き職業人としての人間力の基礎は、誰からも信頼される人間性である。 このため、コミュニケーションの大切さを理解し、その基本的なスキルについて考え身につける。						
授 業 内 容	1. 現在の身近な生活環境を考えるために、講義ごと毎回 30 分程度の時間をかけて、1 週間ごとの新聞のなかから話題を取り上げ、内容を掘り下げて解説する。 質疑応答を大切にしたい。 2. コミュニケーション力を磨くため、話し上手・聞き上手のこつや基本的なマナーを身につける。 3. 日本人と日本文化の良さを、その特性、言葉、食生活、文化遺産などを取り上げて考える。 4. 音楽や絵画に関する鑑賞力を養う。 5. 新型コロナ感染症の拡大に伴う生活の変容等について学び考える。						
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 出席点を加味する。						
テ キ ス ト	資料配布						
備 考							

教育課程独自体系				指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人のくらしの理解	分 野	基礎分野	領 域	人間と生活・社会の理解
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科		
科 目 名	看護のための人間理解 講義・30 時間・1 単位			教員名	双田 清美		
目 的	看護の対象である「人間」を身体的、精神的・社会的・文化的側面をもつ「生活者」として総合的にとらえ、人間の価値観の多様性を理解し、その人の尊厳を守り、生き方や生活を支え、看護に繋げるための基礎を学ぶ。また、他者との対話をとおして、自分の思いや考えを自分の言葉で他者に理解できるように表現することを学ぶ。						
授 業 内 容	1 つのテーマをもとに「問い」「考え」「表現する」ことをメインに進める。 1. 「ものの見方」について考える。 2. 万葉集をとおして、日本の四季と日本人の生き方、価値観について学ぶ。 3. 価値観の多様性について考える。 4. ハンセン氏病について学習し、人権について考える。 5. 看護における「生活を整える」意味について考える。 6. DVD を視聴し、人の命と選択について考える。 7. 授業での学びをグループでまとめる。 8. プレゼンテーション・まとめ						
評 価 方 法	1. 課題提出 2. レポート 3. プレゼンテーション 4. 出席点						
テ キ ス ト	必要時資料配布						
備 考							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人と暮らしの理解	分 野	専 門	領 域	地域・在宅看護論	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	家族看護論 講義・15 時間・1 単位			教員名	双田 清美			
目 的	地域・在宅でくらす人とその家族の多様性と意思決定を支え、家族機能がよりよい方向へ向かうことを支える基礎的知識を学ぶ。							
授 業 内 容	1. 家族とは 家族機能について 現代家族とその課題 2. 家族看護の考え方の理解 家族看護の定義 家族看護理論 3. 家族の成長発達に応じた看護 4. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢 5. 家族の危機的状況を支える看護 6. 7 グループワーク (事例をもとに家族看護について理解する)							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 課題							
テ キ ス ト	家族看護論 医歯薬出版 配布資料							
備 考	参考文献 家族看護学 理論と実践 日本看護協会出版会							

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	人と暮らしの理解	分　野	専　門	領　域	健康支援と 社会保障制度	
年次・学期	3 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	公衆衛生 講義・15 時間・1 単位			教員名	梶尾　厚子			
目　　的	社会保障の一環として、国民全体を対象とした人々の健康はどのように守られているのか、公衆衛生的な視点で基本的な知識を学習する。特に社会の動向に関連して人々の健康課題に地域保健活動（公衆衛生活動）がどのように進められているか、行政の役割や他機関、多職種との連携や協働活動を学び、人々の健康を支援する活動を学習する。							
授　業　内　容	1．公衆衛生の意義 2．健康に関する指標 3．疫学方法による健康の理解 4．感染症とその予防 5．公衆衛生の視点で進める保健活動 1）産業保健 2）地域保健 3）環境保健							
評　価　方　法	1．終講試験 2．出席点、受講態度も加味する。							
テ　キ　ス　ト	わかりやすい公衆衛生学　スーベルヒロカワ 国民衛生の動向　厚生統計協会							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人とくらしの理解	分 野	専門 基礎	領 域	健康支援と 社会保障制度	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	社会保障 講義・15 時間・1 単位			教員名	高才 彰			
目 的	「ウェルビーング」の実現に向け、人の命とくらしを守るための看護に必要な社会保障の制度や法体系、サービス内容等の基本的な知識を修得し、ケアマネジメントする力を身につける。							
授 業 内 容	回数	授業内容（主題）					備考	
	1	社会保障の概念・目的・機能・体系						
	2	現代社会の変化と社会保障の動向 ①						
	3	現代社会の変化と社会保障の動向 ②						
	4	医療保障						
	5	所得保障						
	6	介護保障・公的扶助						
	7	介護保障						
		終講試験						
評 価 方 法	1. 終講試験							
テ キ ス ト	「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 3 社会保障・社会福祉」 （第 2022 年改訂版）ISBN978-4-260-04859-0							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	人とくらしの理解	分　野	専門基礎	領　域	健康支援と 社会保障制度	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	社会福祉 講義・15 時間・1 単位			教員名	高才　彰			
目　　的	子どもから高齢者、障がい者など生活上なんらかの支援や介助を必要とする人を対象に生活の質を維持・向上させるための社会福祉制度についての基礎的な知識を学ぶ。 さらに、これらの知識を活用して、社会福祉援助の実践と他職種連携について学ぶ。							
授　業　内　容	回数	授業内容（主題）					備考	
	1	社会福祉の法制度						
	2	社会福祉の財政、組織と実施体制						
	3	高齢者福祉						
	4	児童家庭福祉　①						
	5	児童家庭福祉　②						
	6	社会福祉援助の実践と医療・看護を含む他職種連携　①						
	7	社会福祉援助の実践と医療・看護を含む他職種連携　②						
		終講試験						
評　価　方　法	1．終講試験							
テ　キ　ス　ト	「系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度 3　社会保障・社会福祉」（第 2022 年改訂版）ISBN978-4-260-04859-0							
備　　考								

教育課程独自体系				指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人とくらしの理解	分 野	専門基礎	領 域	健康支援と 社会保障制度
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科		
科 目 名	地域でくらす人を支えるしくみ 講義・15 時間・1 単位			教員名	都甲 裕美		
目 的	本校が存在する地域でくらす人々の年齢構成や周辺の状況、物的特徴などの現状をふまえ、活用できる社会資源を理解し、地域の人々が健やかな生活を営むために支えるしくみについて考える。						
授 業 内 容	回数	内容				授業形態	
	1 2 3	岡山市担当地域の理解 (周辺マップ作り・構成員・物的環境・社会資源) ・情報収集（地域住民などへのインタビュー） ・担当事例の明確化（地域でくらす人のイメージ像を作成）				グループワーク	
	4	地域でくらす人の健やかな生活を支えるとは ・自分や家族が今までの生活の中で、健やかに生活することに困った状況を想起し、利用したことのある社会資源について考える。				講義	
	5 6 7	地域の社会資源を活かそうプロジェクト ・担当地域に住む事例の状況に合わせて、 健やかに生活できるための提案書を作成する。				個人ワーク	
	8	プレゼンテーション ・再構築					
評 価 方 法	1. 提出物 2. ワークの参加状況 3. 出席点						
テ キ ス ト	必要時資料配布						
備 考	ワークでは、ICT を活用します。						

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人のくらしの理解	分 野	専門分野	領 域	地域・在宅看護論	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	地域・在宅でくらす人への看護 講義・1 5 時間・1 単位			教員名	双田 清美			
目 的	学院周辺の地域で生活している人の実態や生活環境の特徴を理解し、地域の方が在宅で療養するときの保健医療福祉のフォーマル、インフォーマルなサービスやそのしくみを理解するとともに、地域・在宅における看護師の役割と責務について理解する							
授 業 内 容	1. 人が生活し支えあって生きていることを理解する。 2. 学院周辺の地域で生活している人と環境について理解する。 3. 地域・在宅看護論の対象と健康と生活を支える看護について理解する。 4. 在宅で継続して生活するために必要な社会資源を理解する。 5～6. 学院周辺の地域で生活している人の架空事例をもとに、地域・在宅で継続して生活するための社会資源と看護の支援について学ぶ。 7. 看護師の役割と責務について理解する。 8. 終講試験							
評 価 方 法	終講試験 レポート							
テ キ ス ト	在宅看護論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人のくらしの理解	分 野	専 門	領 域	地域・在宅看護論	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	災害に備えるくらしと看護 講義・15 時間・1 単位			教員名	浅越 博之			
目 的	本学をとりまく地域社会でくらす人々を対象とし、安心した生活を送るために、災害に備える基礎的知識をもとに、地域の特性をふまえて避難生活をイメージし、命とくらしを支える看護の役割を理解する。							
授 業 内 容	回数	内 容				授業形態		
	1	旭川荘や地域の災害のリスクを知る				講義		
	2	祇園地域の災害マップを作製し、理解する				グループワーク		
	3 4 5	学院の避難所の理解 災害発生時、避難所における看護の役割、地域との連携、連携上の倫理的判断 各発達段階での災害のリスクを知る 子ども、妊婦、高齢者、障がい者、精神患者、慢性疾患患者に対する看護				グループワーク		
	6 7 8	災害が起こった場合のシミュレーション行動をとおして理解する 1) 避難所運営シミュレーション 2) 避難所運営活動の実際				講義		
						グループワーク		
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 授業態度・出席点を加味する							
テ キ ス ト	配布資料 災害看護学・国際看護学 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人とくらしの理解	分 野	専門分野	領 域	成人看護学	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	成人看護学概論 講義・15 時間・1 単位			教員名	都甲 裕美			
目 的	成人看護学の対象である「大人」を理解し、社会において生活を営み人生を歩んでいる大人の健康を維持・促進するために必要な基礎的知識を学ぶ。また、成人の健康レベルに対応した看護や健康生活を促すための看護アプローチの基本について理解する。							
授 業 内 容	回数	内 容				授業形態		
	1	成人期にある対象の理解				講義		
	2 3	成人の生活と健康 ・自己の健康状態について健康日本 21 の指標をもとにアセスメントする。				講義・ワーク		
	4 5 6	成人の健康レベルに対応した看護 1) 成人期にある対象者の事例を通して、 健康レベルの変化に応じた看護について考える。 2) ヘルスプロモーションと看護 3) 健康をおびやかす要因と看護 4) 健康の急激な破綻から回復を促す看護 5) 慢性病との共存を支える看護 6) 障害のある人の生活とリハビリテーション 7) 人生の最期のときを支える看護				講義 DVD 視聴による事例学習		
	7	健康生活を促すための看護アプローチ ・成人への看護アプローチ ・エンパワメント ・セルフマネジメント ・自己効力				講義		
	8	終講試験						
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 課題 3. 出席点（遅刻・早退・欠席は加点しない）							
テ キ ス ト	成人看護学総論 医学書院 臨床看護学総論 医学書院							
備 考	4 回目・5 回目は DVD を視聴します。							

教育課程独自体系				指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人とくらしの理解	分 野	専 門	領 域	老年看護学
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科		
科 目 名	老年看護学概論 講義・30 時間・1 単位			教員名	大森 和子・大本 明美		
目 的	高齢者はかつて生産性に貢献し、日本の骨組みを作ってきた。そして現在も生産性に貢献している高齢者も少なくない。その様な高齢者は生活歴が長く個性性も大きい。半面、身体機能や認知機能は低下していく中、高齢者の権利擁護を理解し、対象者の問題を解決するために看護職が担う役割は大きい。その実現のために高齢者を多面的に理解し、生活を支援するための看護の基礎と役割を学ぶ。						
授 業 内 容	大森（15 時間） 1. 老年期の理解（老いを学ぶ、健康指標から見た高齢者の理解、老いること、老いを生きること、ライフサイクルからみた老年期） 2. 老年看護の基盤（老年看護の成り立ち、老年看護の役割、老年看護に役立つ理論） 3. 加齢に伴う変化の理解（疾病をめぐる特徴、体の加齢変化とアセスメント、精神機能や社会の変化） 4. 加齢の変化と疾患のなかで生きる高齢者を理解する 大本（15 時間） 5. イントロダクション 高齢者社会と統計 6. 高齢者における保健医療福祉の動向（総論、介護保険、医療、多職種協働） 7. 高齢者の権利擁護（基本となること、権利擁護と虐待、身体拘束、制度） 8. 認知症の基本（基本知識、対応）						
評 価 方 法	1. 終講試験（50 点―50 点） 2. グループ課題、レポート 3. 授業態度、出席状況						
テ キ ス ト	配布資料 老年看護学 医学書院						
備 考							

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	人のくらしの理解	分　野	専門分野	領　域	小児看護学	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	小児看護学概論 講義・15 時間・1 単位			教員名	安藤　嘉			
目　　的	現代の子どもと家族の状況を踏まえ、小児看護の役割と課題を知り、子どもに関する保健対策や子どもの人権について学ぶ。							
授　業　内　容	1. 子どもとは （子どもの特徴、子どもと家族、社会） 2. 小児看護の理念と看護の概念 ・小児医療・小児看護の変遷 ・子どもの人権と看護（子どもと倫理、児童憲章、子どもと家族をとりまく社会の変化と問題） 3. 子どもの人権と看護 （諸統計、子どもの権利、行政施策など） 4. 子どもと家族をめぐる環境の変化と保健 （少子高齢化社会、情報化社会、小児事故、子どもの虐待の背景と求められる援助） 5. 子どもをめぐる法律と施策 （法律、母子保健行政施策、予防接種、学校保健と健康相談） 6. 医療・療育・生活に関わる職種との連携 7. 子どもの成長過程と発達課題 （定義・発達の一般原則、影響因子、成長の評価）							
評　価　方　法	1. 終講試験 2. 小テスト 3. 課題レポート							
テ　キ　ス　ト	小児看護学概論・小児臨床看護総論　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系				指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	人のくらしの理解	分　野	専門分野	領　域	母性看護学
年次・学期	1 年次・前後期		担当科	看護学科			
科　目　名	母性看護学概論 講義・30 時間・1 単位		教員名	寺岡　仁子・有道　順子			
目　　的	人間の性と生殖の概念を理解し、次世代を担う母性看護の対象の特徴を理解する。また、命を健やかにはぐくむための社会のしくみやリプロダクティブヘルス／ライツ、ウエルネスの視点を学び、母子保健の今後の課題を理解する。また、生殖機能の発達段階（胎児期・小児期・思春期・成熟期・更年期・老年期）における特徴と健康課題を理解し、より健康なライフサイクルを支えるために必要な看護を学ぶ。						
授　業　内　容	寺岡（15 時間） 1．母性看護の対象理解 2．女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化と家族　2）国際化社会と看護 3．女性のライフサイクルにおける健康課題と看護 1）胎児期：出生前診断・着床前診断 2）思春期：解剖学的特徴と月経周期の確立など 3）成熟期：家族計画（避妊法） 4）更年期：閉経とホルモン変動など 5）老年期：性器脱・膣炎 有道（15 時間） 4．母性看護の基盤となる概念 1）母性とは 2）母子関係と家族発達 3）セクシュアリティ 4）リプロダクティブヘルス／ライツ 5）ヘルスプロモーション 6）母性看護のあり方 7）母性看護における倫理 8）母性看護における安全・事故予防 5．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1）母性看護の歴史的変遷と法律・施策 2）母性看護の提供システム						
評　価　方　法	1．終講試験 2．グループワークへの参加とレポート提出 3．授業態度・出席点を加味						
テ　キ　ス　ト	母性看護学概論　医学書院 母性看護学各論　医学書院						
備　　考							

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	人とくらしの理解	分　野	専門分野	領　域	精神看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	精神看護学概論 講義・15 時間・1 単位			教員名	横山　なおみ			
目　　的	近年、精神医療の改革及び精神保健福祉サービスの充実に伴い、入院治療中心から在宅・地域ケア中心へと転換期を迎え、精神に障がいがある人を取り巻く環境は大きく変化している。精神医療及び看護は長い歴史の中でその時代のニーズに沿って変革してきた過程がある。この科目では精神保健医療福祉の歴史の変革と現状・課題を理解する。また、精神医療福祉に関わる法律を学び、アドボケイトとしての看護師の役割を理解する。							
授　業　内　容	回数	表題	内 容				形態	
	1	精神看護学とはなにか	・精神の健康 ・世界と日本社会における精神医療看護の課題 ・精神の健康と精神障がいの考え方 ・精神看護の専門性 ・精神科病院における医療のしくみ （精神保健福祉法による入院形態・行動制限に関わる事項）				講義	
	2	精神障がいと治療の歴史・法律の変遷	・世界及び日本における中世から近代に至るまでの精神医療保健福祉の変遷と法律の改正 ・精神医療保健福祉の変遷と人権問題				講義	
	3							
	4	精神障がいと法制度	・精神保健福祉法：概要および入院生活や地域生活に関する事項 ・障害者総合支援法：自立支援給付・地域生活支援事業 ・成年後見制度 ・障害者虐待防止法・障害者差別解消法 ・医療観察法 ・自殺対策基本法				講義	
	5							
	6	地域生活を支えるシステムと社会資源	・相談機関の役割：市町村役所・保健所・精神保健福祉センター・心のケアセンター ・障害福祉サービス：地域活動支援センター・ ・就労に関する支援 ・多職種連携の実際				講義	
	7							
		終講試験						
	評　価　方　法	1．終講試験 2．授業態度・出席点を加味						
テ　キ　ス　ト	精神看護の基礎　医学書院 精神看護の展開　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系				指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人のくらしの理解	分 野	専 門	領 域	地域・ 在宅看護論
年次・学期	3 年次・前後期			担当科	看護学科		
科 目 名	地域・在宅でくらす人を支える看護実習 実習・40 時間・1 単位			教員名	看護学科教員		
目 的	地域・在宅でくらす人々が、社会資源を活用し、終の棲家である施設の中で、その人らしく充実した生活を送るための看護の役割を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行なう。						
授 業 内 容	人は生まれ育った環境や地域、職業、趣味、価値観、家族や周囲の人との関係などがその人の生活を形作っていく。また、加齢の影響を考えたセルフケア能力を保ち、その人らしく充実した生活を送りながら緩やかに死へと向かう人を支える看護の役割を学ぶ。 実習場所 旭川敬老園 事前オリエンテーション；2 時間学内 月～木 4 日間；32 時間臨地（8：30～15：15 昼 45 分） 金；6 時間学内 （10：40～16：10 講義時間に準じる）						
評 価 方 法	・ 学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は 60 点以上とする。 ・ 合格の可否は審議し、決定する。						
テ キ ス ト	実習要項 在宅看護論 医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論 医学書院						
備 考							

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	人のくらしの理解	分　野	専　門	領　域	地域・在宅看護論	
年次・学期	3 年次・前後期			担当科	看護学科			
科　目　名	地域・在宅で療養する人を支える看護実習Ⅰ （在宅復帰に向けた看護） 実習・40 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目　　的	地域包括ケアシステムの観点から多様な場での看護の役割を理解する。ここでは特に在宅に復帰するため施設に入所し、リハビリテーションを必要とする高齢者とその家族との関わりをとおして、認知機能や生活機能の低下が生活に及ぼす影響をふまえ、在宅復帰に向けた看護の役割や多職種連携について学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行なう。							
授　業　内　容	高齢者が安心して療養生活の場から日常生活の場に戻ることができるように、医療と看護・介護を引き継ぐ支援が必要となる。高齢者自身が健康状態を意識し、活動と休息のバランスを考え日常生活を継続するためのセルフケア能力を保つことができるような援助をする。 実習場所 光生リハビリ苑またエスペランスわけ 事前オリエンテーション：2 時間学内 月～木 4 日間：32 時間臨地（8：30～15：15 昼 45 分） 金：6 時間学内（10：40～16：10 講義時間に準じる）							
評　価　方　法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は 60 点以上とする。 ・合格の可否は審議し、決定する。							
テ　キ　ス　ト	実習要項 老年看護学　医学書院 老年看護　病態・疾患論　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	人のくらしの理解	分　野	専　門	領　域	地域・在宅看護論	
年次・学期	3 年次・前後期			担当科	看護学科			
科　目　名	地域・在宅で療養する人を支える看護実習Ⅱ （在宅での看護） 実習・40 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目　　的	地域包括ケアシステムの観点から多様な場での看護の役割を理解する。ここでは地域で生活しながら療養する人々やそれを支える人々の医療管理や生活援助の実際を理解し、在宅における看護を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行なう。							
授　業　内　容	健康の知識があり、生活の視点をもつ看護師は療養者と支える人々の健康状態や療養生活を知ることによってどのように看護師や多職種が支えるか学ぶ。また、社会資源の活用や連携方法を理解することで在宅ケアの重要性を学ぶ。 実習場所 旭川荘訪問看護ステーションまたは草加病院関連施設（わかき訪問看護ステーション他）または博愛会病院関連施設（訪問看護ステーションサマリア・看護小規模多機能型居宅介護のぞみ） 事前オリエンテーション；2 時間学内 月～木 4 日間；32 時間臨地（8：30～15：15 昼 45 分） 金；6 時間学内　（10：40～16：10 講義時間に準じる）							
評　価　方　法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は 60 点以上とする。 ・合格の可否は審議し、決定する。							
テ　キ　ス　ト	実習要項 在宅看護論　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	人のくらしの理解		分 野	専門分野	領 域	小児看護学
年次・学期	3 年次・前後期			担当科	看護学科			
科 目 名	子どもの看護実習Ⅰ (子どもの支援) 実習・40 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目 的	乳幼児の日常生活行動を実際の保育活動を通して観察し、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行なう。							
授 業 内 容	少子高齢化社会を迎えて、子どもを取り巻く環境は急速に変化している。この変化の中で、次世代を担う子どもたちの成長・発達の特徴を学ぶことは、小児看護を学ぶ上で重要である。保育園で集団生活している子どもの基本的な生活習慣や、遊びの意義を理解する中で、子どもの健やかな成長発達を促すための援助を理解する。また、子どもと関わる中で、一人の人として尊重した態度で接することの大切さを学ぶ。 実習場所 高島第一保育園またはみかど貴ッズ保育園またはひらたえがお保育園 事前オリエンテーション：2 時間学内 月～木 4 日間：32 時間臨地（8:30～15:15 昼 45 分） 金：6 時間学内（10:40～16:10 講義時間に準じる）							
評 価 方 法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて行い、合格は 60 点以上とする。 ・合格の可否は審議し、決定する。							
テ キ ス ト	実習要項 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系				指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解	分　野	専門 基礎	領　域	人体の 構造と機能
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科		
科　目　名	解剖生理学Ⅰ (細胞と動くしくみ) 講義・30 時間・1 単位			教員名	柳原　衛		
目　　的	ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。 人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。 解剖生理学Ⅰにおいては、人体の素材としての細胞・組織、および生殖・発生と老化のしくみ、さらには身体の支持と運動について学ぶ。						
授　業　内　容	1. 人体の概略 2. 細胞の構造 3. 核酸とタンパク質合成 4. 細胞膜の構造と機能 5. 組織の種類と特徴 6. 人体を表す基本用語、体液とホメオスタシス 7. 生殖器系、受精と胎児の発生、成長と老化 8. 骨の構造、骨の発生と成長、関節の構造と種類 9. 骨格筋の構造と作用 10. 体幹の骨格と筋 11. 上肢の骨格と筋 12. 下肢の骨格と筋 13. 頭頸部の骨格と筋 14. 筋の収縮 15. 終講試験						
評　価　方　法	1. 終講試験 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席および授業への取り組み姿勢						
テ　キ　ス　ト	解剖生理学　医学書院						
備　　考							

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解	分　野	専門 基礎	領　域	人体の 構造と機能	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	解剖生理学Ⅱ (消化吸収と神経) 講義・30 時間・1 単位			教員名	柳原　衛			
目　　的	ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。 人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。 解剖生理学Ⅱにおいては、栄養の消化と吸収、および情報の受容と処理のしくみについて学ぶ。							
授　業　内　容	1. 神経細胞の構造と生理 2. 脳の発生、脳室と髄膜 3. 脊髄の構造と機能 4. 脳幹の構造と機能 5. 終脳の構造と機能 6. 脊髄神経と脳神経 7. 神経伝導路、高次神経機能 8. 眼の構造と視覚 9. 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、痛覚 10. 消化器系概説、消化器の発生と一般構造 11. 口・咽頭・食道の構造と機能 12. 腹部消化管の構造と機能 13. 脾臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 14. 消化と吸収 15. 終講試験							
評　価　方　法	1. 終講試験 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席および授業への取り組み姿勢							
テ　キ　ス　ト	解剖生理学　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	健康の理解	分 野	専門基礎	領 域	人体の構造と機能	
年次・学期	1 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	解剖生理学Ⅲ (呼吸と循環) 講義・30 時間・1 単位			教員名	片山 雅博			
目 的	ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。 看護学に必要な人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。 解剖生理学Ⅲにおいては、生命維持に必要な呼吸と循環のしくみについて学ぶ。							
授 業 内 容	1. 呼吸器の構造 2. 呼吸器の機能 3. 呼吸とは呼吸運動（呼吸筋の働き）、換気、外呼吸と内呼吸 4. 呼吸器の機能 1：肺胞の機能、呼吸のメカニズム 5. 呼吸器の機能 2：呼吸気量（1 回換気量、肺活量、1 秒量、1 秒率） 6. 呼吸器の機能 3：ガス交換とガス（酸素と二酸化炭素）の運搬、エネルギー産生 7. 呼吸運動の調節：呼吸中枢、血液ガス（Pa O ₂ 、Pa $\bar{\text{O}}$ O ₂ 、血液 PH）、病的呼吸 8. 血液の組成と血球（赤血球、白血球、血小板）の分化 9. 血液の組成と機能：赤血球の働き、白血球の働き 10. 血液凝固のしくみ（血小板、凝固因子の働き）、血液型 11. 心臓の構造 12. 心臓の拍出機能（心臓の興奮とその伝播、心電図） 13. 心臓の拍出機能（心臓収縮、血圧とその調節 14. まとめ 15. 終講試験							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席状況							
テ キ ス ト	解剖生理学 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解	分　野	専門基礎	領　域	人体の構造と機能	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	解剖生理学Ⅳ (内部環境の調整) 講義・30 時間・1 単位			教員名	片山　雅博			
目　　的	ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。 看護学に必要な人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。 解剖生理学Ⅳにおいては、生命維持に必要な腎、内分泌系、免疫のしくみについて学ぶ。							
授　業　内　容	1. 血管の構造、全身の動脈・静脈 2. 血液循環の調節　血圧・血流量の調節 3. 循環器系の病態生理、リンパ系 4. 腎臓の構造と機能 5. 糸球体の機能（濾過）、傍糸球体装置の機能（レニン、エリスロポエチン） 6. 尿細管の機能、排尿路 7. 体液の調節　脱水、電解質異常、酸塩基平衡 8. 自律神経による調節　交感神経と副交感神経の構造と働き（神経伝達物質） 9. 内分泌系による調節　ホルモンの作用機序 10. 内分泌腺と内分泌細胞Ⅰ　視床下部一下垂体系、甲状腺 11. 内分泌腺と内分泌細胞Ⅱ　睪臓、副腎、性腺 12. ホルモン分泌の調節　糖代謝、カルシウム代謝、高血圧 13. 免疫の仕組み　細胞性免疫、液性免疫、予防接種、アレルギー 14. 皮膚の構造と機能、体温とその調節 15. 終講試験							
評　価　方　法	1. 終講試験 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席および授業への取り組み姿勢							
テ　キ　ス　ト	解剖生理学　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	健康の理解	分 野	専門 基礎	領 域	人体の 構造と機能	
年次・学期	1 年次・前後期			担当科	看護学科			
科 目 名	生命維持に必要な栄養のはたらき 講義・30 時間・1 単位			教員名	清水 憲二			
目 的	看護学に必要な体の成分の成り立ちや代謝を学び、その調節機構がどのように健康を維持しているかを、物質レベルで学習する。また、臨床栄養学の基礎知識と治療食の基礎知識を学ぶ。							
授 業 内 容	〔前期〕 生化学分野 1. 代謝総論 2. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質及び酵素 3. 糖質代謝 4. 脂質代謝 5. たんぱく質とアミノ酸の代謝 6. 核酸・ヌクレオチドの代謝 7. 代謝の統合と制御 8. 遺伝情報及び疾患 〔後期〕 栄養学分野 1. 臨床栄養学の基礎知識 2. 食品成分とエネルギー 3. 日本人の食事摂取基準（2020年版） 4. 運動と栄養；エネルギー代謝 5. 身体構成と栄養；身体の構成と機能調節に関わる栄養 6. ライフステージ別の栄養管理 7. 疾患に関わる栄養管理 8. 疾患別治療食							
評 価 方 法	前期及び後期の各期末試験を総合して評価する。							
テ キ ス ト	臨床生化学 メディカ出版 臨床栄養学 メディカ出版							
備 考	偶数回の講義ごとに質問票を配布して質問を受け付け、それらの回答をプリントにして配布する。							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	健康の理解	分 野	専門 基礎	領 域	疾病の成り立ち と回復の促進	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	病理学 講義・30 時間・1 単位			教員名	兵藤 文則・西谷 耕二			
目 的	看護学に必要な健康障害時の病態理解のため、炎症、腫瘍、代謝異常などの基本原理を学び、 病因と病変の特徴を学ぶ。							
授 業 内 容	1. 病因論 2. 先天異常と遺伝子異常 3. 代謝障害（退行性病変）（1）脂質・タンパク質障害 4. 代謝障害（退行性病変）（2）糖質・無機物質・色素代謝障害 5. 循環障害（1）局所性の循環障害 6. 循環障害（2）全身性の循環障害、リンパの循環障害 7. 進行性病変 8. 炎症と免疫、膠原病（1）炎症 9. 炎症と免疫、膠原病（2）免疫 10. 炎症と免疫、膠原病（3）膠原病 11. 感染症 12. 腫瘍（1）定義と分類 13. 腫瘍（2）発生病理 14. 腫瘍（3）転移と進行度、診断と治療 15. 老化と死							
評 価 方 法	1. レポート課題 2. 終講試験 3. 出席状況							
テ キ ス ト	病理学 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	健康の理解	分 野	専門 基礎	領 域	疾病の成り立ち と回復の促進	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	疾病と治療Ⅰ (呼吸循環機能障害) 講義・30 時間・1 単位			教員名				
目 的	看護学に必要な呼吸・循環機能障害者の疾病の種別、原因、症状の特徴、検査、治療を理解し、治療に必要な基礎的知識を学ぶ。							
授 業 内 容	1. 呼吸器疾患の理解 2～5. 症状・徴候とその病態生理 6～8. 検査と治療・処置 9. 循環器疾患の理解 10～12. 症状・徴候とその病態生理 13～14. 検査と治療・処置 15. 終講試験							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 出席状況							
テ キ ス ト	呼吸器 医学書院 循環器 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解	分　野	専門基礎	領　域	疾病の成り立ちと回復の促進	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	疾病と治療Ⅱ (栄養代謝機能障害) 講義・30 時間・1 単位			教員名	片山　雅博・寺岡　仁子			
目　　的	看護学に必要な栄養代謝障害の種別、原因、症状の特徴、検査、治療を理解し、治療に必要な基礎的知識を学ぶ。							
授　業　内　容	【腎疾患の理解】 Ⅰ　腎不全・ネフローゼ症候群・DM性腎症 Ⅱ　症状・兆候とその病態生理 1. 尿の異常　2. 排尿異常　3. 浮腫 Ⅲ　検査と治療・処置 1. 尿検査　2. 腎機能検査　3. 画像検査・生検 4. 腎疾患内科的治療の基本　5. 排尿管理　6. 腎移植 【糖代謝疾患の理解】 Ⅰ　糖尿病・脂質異常症・尿酸代謝異常・肥満症とメタボリックシンドローム Ⅱ　症状・兆候とその病態生理 Ⅲ　検査と治療・処置 【前立腺・膀胱】 Ⅰ　構造と機能 1 膀胱　　2 前立腺 Ⅱ　排尿と症状 Ⅲ　診察・検査 Ⅳ　膀胱と疾患・治療 Ⅴ　前立腺と疾患・治療 【消化器】 Ⅰ　食道の疾患 1. 構造と機能　2. 症状　3. 診察・検査　4. 膀胱と疾患・治療 Ⅱ　胃・十二指腸の疾患 1. 構造と機能　2. 症状　3. 診察・検査　4. 胃・十二指腸疾患・治療 Ⅲ　胆道系・肝臓・膵臓の疾患 1. 構造と機能　2. 症状　3. 診察・検査　4. 胆道系・肝臓・膵臓の疾患・治療							
評　価　方　法	1. 筆記試験 2. 出席状況							
テ　キ　ス　ト	配布資料 腎・泌尿器　医学書院 消化器　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系				指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	健康の理解	分 野	専門基礎	領 域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科		
科 目 名	疾病と治療Ⅲ (内部環境・生体防御機能障害) 講義・30 時間・1 単位			教員名	片山 雅博		
目 的	看護学に必要な内部環境調節や生体防御機能障害の種別、原因、症状の特徴、検査、治療を理解し、治療に必要な基礎的知識を学ぶ。						
授 業 内 容	1. 内部環境調節を障害されている人の理解 1) 内分泌疾患の理解 2) 内分泌疾患の症状・徴候とその病態生理 3) 内分泌疾患の検査と治療・処置 2. 生体防御機能を障害されている人の理解 1) アレルギー疾患の理解 2) アレルギー疾患の症状・徴候とその病態生理 3) アレルギー疾患の検査と治療・処置 4) 自己免疫疾患の理解 5) 自己免疫疾患の症状・徴候とその病態生理 6) 自己免疫疾患の検査と治療・処置 7) 感染症疾患の理解 8) 感染症疾患の症状・徴候とその病態生理 9) 感染症疾患の検査と治療・処置 3. 血液造血機能を障害されている人の理解 1) 血液・造血疾患の理解 2) 血液・造血疾患の症状・徴候とその病態生理 3) 血液・造血疾患の検査と治療・処置						
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 出席状況						
テ キ ス ト	配布資料 内分泌・代謝 医学書院 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 血液・造血器 医学書院						
備 考							

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解	分　野	専門基礎分野	領　域	疾病の成り立ちと回復の促進	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	疾病と治療Ⅳ (運動・感覚機能障害) 講義・30 時間・1 単位			教員名	村上　昌穂・青木　清			
目　　的	看護学に必要な運動機能や神経・感覚機能障害の種別、症状の特徴、検査、治療の基礎的知識について学ぶ。							
授　業　内　容	1～5. 運動機能を障害されている人の理解（10 時間　青木） ・疾患の理解 外傷性（外因性）の運動器疾患・非外傷性（内因性）の運動器疾患 ・症状とその病態生理 ・診断・検査と治療・処置 神経・感覚機能を障害されている人の理解（20 時間　村上）							
	回数	講義内容					備考	
	6	脳・神経の構造と機能						
	7	脳血管障害（脳梗塞）の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置						
	8	脳血管障害（脳出血）の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置						
	9	脳血管障害（くも膜下出血）の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置						
	10	脳腫瘍の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置						
	11	頭部外傷・脳脊髄液の異常の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置						
	12	筋疾患・神経筋接合部疾患（筋ジストロフィーの症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置						
	13	脱髄・変性疾患（パーキンソン病）の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置						
	14	脱髄・変性疾患（筋委縮性側索硬化症）の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置						
	15	脳・神経系の感染（特に脳炎・髄膜炎）の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置						
		終講試験						
	評　価　方　法	筆記試験						
テ　キ　ス　ト	脳・神経　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	健康の理解	分 野	専門 基礎	領 域	疾病の成り立ち と回復の促進	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	侵襲的治療Ⅰ (がんの治療) 講義・15 時間・1 単位			教員名	高間 雄大			
目 的	看護学に必要ながんの主な治療法及び緩和医療について学び、治療しながら生活する人への影響について理解する。							
授 業 内 容	1 ～ 2. がんの疫学・特性・栄養 インフォームドコンセント・EBM がんの治療に必要な統計学的用語 3 ～ 5. がん治療の実際 ・手術療法 ・化学療法 ・放射線療法 6 ～ 7. 緩和医療 ・緩和ケアとは ・終末期に大切にしたいこと ・WHO 方式がん疼痛治療法について 8. 終講試験							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 出席状況							
テ キ ス ト	配布資料							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解	分　野	専門基礎	領　域	疾病の成り立ちと回復の促進	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	侵襲的治療Ⅱ (手術療法) 講義・15 時間・1 単位			教員名	吉田　和弘			
目　　的	看護学に必要な回復過程の生体反応の知識を基盤として治療や栄養補給に関する原則を理解する。周手術期の治療の概観を理解する。							
授　業　内　容	1. 手術侵襲と生体反応・麻酔法 全身麻酔：麻酔器・マスク・気管挿管・吸入麻酔・静脈麻酔・バランス麻酔 局所麻酔：脊髄クモ膜下麻酔・硬膜外麻酔 2. 手術期器械、設備類手術用機器：電気メス・レーザー手術装置 3. モニター 循環器系モニター・呼吸器系モニター・筋弛緩モニター 体温測定：直腸温・口腔・咽頭温・鼓膜温・膀胱温 4. 酸素療法・機械的人工換気（人工呼吸器） 5. 周手術期の輸液管理・栄養管理・輸血療法 6. 手術前管理：循環器系・呼吸器系・消化器系・血液、凝固系・内分泌系各検査 呼吸機能検査、血液一般、生化学、血糖値、感染症、血液型、心電図 7. 術後の疼痛管理・合併症とその予防 8. 終講試験							
評　価　方　法	1. 終講試験 2. 出席状況							
テ　キ　ス　ト	高齢者と成人の周手術期看護 1　外来／病棟における術前看護　医歯薬出版 高齢者と成人の周手術期看護 2　術中／術後の生体反応と急性期看護　医歯薬出版 臨床外科看護総論　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系				指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解	分　野	専門基礎	領　域	疾病の成り立ちと回復の促進
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科		
科　目　名	臨床薬理学 講義・30 時間・1 単位			教員名	荒木　博陽		
目　　的	様々な疾患の治療に薬物療法は欠かすことのできない手法であり、医療従事者は用いられる薬物についてその様々な性質や作用（主作用、副作用、相互作用など）を十分に認識しておく必要がある。なかでも看護業務は患者さんの最も身近で薬物療法を支える大変重要な役割を担う。従って、看護師は与薬等の薬物療法を行う上で医薬品に関する的確な知識を有することが大変重要である。 臨床薬理学では薬物に関する基礎的な知識、各疾患において使用される代表的な薬物の種類、効果と副作用、どのように有効性を発揮するのか（作用機序）、体内での薬物の運命（薬物動態）からみた薬物間の相互作用等を学習し、看護業務における医薬品の適正使用に対応できる実践的な知識も身につけておく必要がある。						
授　業　内　容	<薬理学総論> 1. 薬理学の概念・薬が作用するしくみ 2. 薬物の体内挙動 3. 薬物間相互作用 4. 薬害、妊婦・授乳婦への薬物治療、副作用、薬物依存、法律、新薬開発 <薬理学各論> 5. 感染症治療薬 6. 抗がん薬 7. 免疫治療薬 8. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 9. 自律神経作用薬 10. 中枢神経系作用薬 11. 循環器系に作用する薬物 12. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 13. 物質代謝に作用する薬（糖尿病治療薬他） 14. 皮膚科・眼科用薬　他 15. 終講試験						
評　価　方　法	1. 宿題 20 点 2. 終講試験 80 点						
テ　キ　ス　ト	薬理学　医学書院						
備　　考	参考文献　知らないといけない！病棟でよく使われるくすり　編集荒木博陽　照林社 臨床場面でわかる！薬の知識 ・授業中や授業後の質問は大歓迎。 ・私語は厳禁。						

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の対象の理解	領 域	健康の理解	分 野	基礎	領 域	疾病の成り立ちと回復の促進	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	微生物と感染症 講義・30 時間・1 単位			教員名	篠田 純男・野田 泰子			
目 的	近年、新しく発見された微生物による感染症が大きな社会的問題になっており、結核に代表されるような、忘れがちになっていた感染症の再発も問題視されている。起炎菌や社会環境の変化、患者の人権の問題を含めて、感染症を引き起こす微生物の基礎知識を学ぶとともに、患者の安全や感染予防の重要性に照らし、予防と対策について正しい知識と態度を学ぶ。							
授 業 内 容	回	授業内容					展開方法	
	1	微生物学総論（歴史・分類、形態）、細菌学総論（形態・構造）（野田）					講義	
	2	細菌学総論（増殖・感染（症）の種類・常在細菌叢）（野田）（小テスト）					講義	
	3	細菌学各論（1）グラム陽性球菌（ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属）、薬剤耐性菌（野田）					講義	
	4	細菌学各論（2）グラム陰性通性嫌気性桿菌（腸内細菌科、ビブリオ科、バクテリヤ科）（野田）					講義	
	5	細菌学各論（3）グラム陰性微好気性らせん菌群・好気性菌（シュードモナス科、レジオネラ科、ナイセリア科）（野田）					講義	
	6	細菌学各論（4）偏性嫌気性菌（ボツリヌス菌、破傷風菌、ウェルシュ菌、デフィシル菌）、芽胞菌、抗酸菌、他。（野田）（小テスト）					講義	
	7	ウイルス総論（ウイルスの形態・分類・構造・増殖。インフルエンザウイルス、ヘルペスウイルス）（野田）					講義	
	8	ウイルス各論（主たる病原ウイルス：麻疹・風疹ウイルス、コロナウイルス、ノロウイルス、肝炎ウイルス、H I V、他）（野田）					講義	
	9	プリオン、真菌、原虫。小括。（野田）（小テスト）					講義	
	10	滅菌と消毒（総論）（野田）					講義	
	11	消毒剤（主な消毒剤の適用例：国試対策）。感染経路。感染予防と対策（野田）（小テスト）					講義	
	12	新興・再興・人獣共通感染症。食中毒総論。総纏め（野田）					講義	
	13	免疫：免疫の仕組、有用作用：感染防御、有害作用：アレルギー（篠田）					講義	
	14	化学療法剤：基礎と応用、予防接種：ワクチンと予防接種法（篠田）					講義	
	15	終講試験						
評 価 方 法	終講試験							
テ キ ス ト	『コンパクト微生物学』（監修：小熊恵二、堀田博；編集：林俊治、石戸聡） 南江堂							
備 考	次回の学習箇所を予習（教科書の下読み）しておくこと。							

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解	分　野	専　門	領　域	老年看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	高齢者の健康生活と支援 講義・30 時間・1 単位			教員名	宗次　美登理・大本　明美			
目　　的	高齢者は加齢に伴い種々の機能変化が生じ、日常生活に影響を及ぼすだけでなく、疾患の引き金となる。また、一度健康破綻すると、予備力の低下から健康回復は遅延し、慢性的経過をたどりやすい。これらの特徴を踏まえ高齢者の健康あるいは生活上のリスクを最小にし、もてる力を最大限に引き出すための支援を学ぶ。							
授　業　内　容	大本　（15 時間） 1. 転倒のアセスメントと看護（高齢者の転倒、転倒リスクアセスメント、転倒予防に向けた援助、転倒した高齢者への援助） 2. 廃用症候群のアセスメントと看護（高齢者と廃用症候群、廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護…褥瘡を中心に） 3. 食事・食生活（高齢者における食生活の意義、高齢者の特徴的な変調、食生活のアセスメント、食生活の支援） 4. 排泄（高齢者の排泄ケアの基本、排尿障害のアセスメントとケア、排便障害のアセスメントとケア） 宗次　（15 時間） 5. 日常生活を支える基本的活動（生活の基本となる生活動作、基本動作・姿勢を抱える環境、日常生活動作の評価） 6. 生活リズム（高齢者と生活リズム、高齢者の特徴的な変調、生活リズムのアセスメント、生活リズムを整える看護） 7. コミュニケーション（高齢者とのかかわり方の原則、コミュニケーション能力のアセスメント、高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法） 8. 社会参加（高齢者の現状と目指す社会の方向性、地域における高齢者の社会参加）							
評　価　方　法	1. 筆記試験 2. 授業態度・出席点を加味する							
テ　キ　ス　ト	老年看護学　医学書院 老年看護・病態・疾患論　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解		分　野	専　門	領　域	小児看護学
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	子どもの発達と支援 講義・30 時間・1 単位			教員名	賀川　奈美			
目　　的	子どもの各期の特徴と成長発達を理解し、成長発達に適した生活ができる方法を理解する。また、子どもに起こりやすい健康課題の特徴を身体的・心理・社会的側面から理解する。さらに、子どもの生命を守り、健康の保持増進と疾病予防を図る生活援助技術について学ぶ。							
授　業　内　容	回数	授業内容			方法			
	1	→授業内容の説明			講義			
	2	→小児各期の成長・発達について						
	3	→子どものアセスメント（護理論・発育評価）						
	4	→成長発達のまとめ：各年齢の特徴をまとめる			講義			
	5	→子どもの成長・発達と支援　①新生児・乳児期			講義			
	6	・特徴と各機能の発達						
	7	・養育と看護						
	8	→子どもの成長・発達と支援　②幼児期（前期・後期）			講義			
	9	・特徴と各機能の発達 ・養育と看護						
	10	→子どもの成長・発達と支援　③学童期			講義			
	11	・特徴と各機能の発達 ・学童を取り巻く諸環境 ・養育と看護						
	12	→子どもの成長・発達と支援　④思春期、青年期			講義			
	13	・特徴と各機能の発達 ・養育と看護 ・心理・社会的適応に関する問題、飲酒・喫煙、事故・外傷など ・思春期の看護						
	14	→成長発達のまとめ発表			プレゼンテーション			
15	終講試験							
評　価　方　法	1．終講試験 2．出席状況 3．提出物等							
テ　キ　ス　ト	小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の対象の理解	領　域	健康の理解	分　野	専　門	領　域	精神看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	こころの健康と支援 講義・30 時間・1 単位			教員名	岡田　麻理子			
目　　的	人は生まれてから死を迎えるまで絶えず心を働かせながら社会生活を営んでおり、心は身体と共に環境の中で様々な影響を受けながら発達し、成熟していく。また、ライフサイクルの中で成熟していく過程においては人は様々な危機に遭遇し、それを乗り越えながら自己実現を目指して生きていく。この科目では心の発達と人のライフサイクルにおける危機への対処行動を支え、心の健康を守るための支援を学ぶ。							
授　業　内　容	回数	表題	内　容			授業形態		
	1	こころの構造と働き	・こころの働き（意識と認知機能・感情・学習と行動・知能・こころの理論） ・こころのしくみ（人格と気質・意識と無意識・自我の構造と役割）			講義		
	2							
	3	人間の成長とこころの発達	・発達：エリクソンの漸成的発達理論・フロイトの自我の発達段階・ピアジェの発生的認識理論） ・子どもの発達とこころ（愛着と対人関係・自己愛の発達） ・家族システム、人間と集団 ・人間の性と発達			講義		
	4							
	5							
	6							
	7	人間の生活とクライシス（精神的危機）	・ストレスとコーピング ・ライフサイクルとメンタルヘルス（成熟に伴う危機） （家庭における危機・学校における危機・職場における危機・地域における危機） ・災害とこころの支援			講義 一部演習		
	8							
	9							
	10							
	11	健康障害とこころの支援	健康障害に伴うこころの危機の理解 危機理論を活用した支援 リエゾン精神看護の役割			講義		
	12							
	13							
	14							
15	看護師のメンタルヘルス				講義			
	終講試験							
評　価　方　法	1．終講試験 2．課題							
テ　キ　ス　ト	精神保健　医歯薬出版 精神看護の基礎　医学書院 精神看護の展開　医学書院							
備　　考								

分野「看護の理解と創造」

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解	分 野	専 門	領 域	地域・在宅看護論	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	地域・在宅で療養する人への看護Ⅰ(多職種との連携) 講義・15 時間・1 単位			教員名	双田 清美			
目 的	地域・在宅で療養する人と家族の目標達成、課題解決に向け、それぞれの職種の特性を活かしながら連携・協働していることを理解する。また、多職種連携のなかでの看護師の役割を学ぶ。							
授 業 内 容	1. 多職種連携とは 2. 在宅における多職種が連携する意味について 3. 在宅における医療・福祉に関わる関係機関や専門職について、また、専門職の資格や業務内容、役割の理解について 4. 多職種連携における看護職の責任と役割 5. 地域・在宅での看護師と他職種との連携の実際 1) 地域・在宅で療養している対象者を設定し課題解決策を考える。 2) 各職種の視点の違いとどのように支援するのかを知る。 3) 多職種が連携するための情報共有の方法を学ぶ。 4) 多職種と連携・協働するための看護師の役割について考える 5) まとめ							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. レポート							
テ キ ス ト	在宅看護論 医学書院 看護学概論 医学書院 看護管理 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解	分 野	専 門	領 域	地域・在宅 看護論	
年次・学期	2 年次・前後期			担当科	看護学科			
科 目 名	地域・在宅でくらす人への看護Ⅱ(発達段階) 講義・30 時間・1 単位			教員名	定金 直美			
目 的	地域・在宅で療養する対象者と家族の発達段階に合わせた目標・課題解決に向けた看護師の役割を学ぶ。							
授 業 内 容	1. 各発達段階の療養者における在宅での看護について 2～4. 気管切開を装着している重度障害児の在宅での看護 5～7. 成人期の療養者の終末期の看護 8～10. 認知症高齢者の一人暮らしの在宅での看護 11～12. 脳卒中の療養者の在宅療養導入の看護 13～14. パーキンソン病の療養者の在宅での看護 15. あらゆる年代の療養者を在宅で支える看護の役割について							
評 価 方 法	1. レポート課題 2. 出席状況							
テ キ ス ト	地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護の実践 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の理解と創造	領　域	看護の理解		分　野	専　門	領　域	成人看護学
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	クリティカルケアを必要とする人への看護 講義・30 時間・1 単位			教員名	清水　恵子			
目　　　的	人が生きていくために、呼吸、循環、栄養、代謝、脳・神経などの機能がはたらかなければならない。疾病や手術などによってこれらの機能が破綻すると生命の危機状態に陥ることやリスクが高まる。このような健康レベルにある成人期の対象者や家族の危機への対応、身体機能の安定や合併症の予防、回復を支援するための看護について学ぶ。							
授　業　内　容	1 ～ 7　クモ膜下出血患者の看護 1) モニタリングと全身状態のアセスメント 2) 周手術期の看護 3) 全身麻酔による影響からの回復を促す看護 4) 呼吸管理 5) 体液・循環管理 6) 合併症の予防と発症時の対応 7) 術後回復を支援する看護（創傷・ドレーン管理・自動運動／多動運動） 8 ～ 14　呼吸・循環に関連する症状を示す対象者への看護 1) 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 2) 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3) 呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 4) 循環障害に関連する症状のメカニズム 5) 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 6) 呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 15　終講試験							
評　価　方　法	・ 授業態度、出席状況 ・ 終講試験							
テ　キ　ス　ト	高齢者と成人の周術期看護 1 ～ 3　医歯薬出版 クリティカルケア看護学　医学書院							
備　　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解	分 野	専 門	領 域	成人看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	生活の再構築を必要とする人への看護 講義・30 時間・1 単位			教員名	浅越 博之			
目 的	対象者は治療による身体機能の変化や、継続的な治療により日常生活上の制約を受けることがある。成人期にある対象者や家族が治療による身体機能の変化や治療の継続が日常になることを認識し受けとめ、日常生活を再構築し、社会復帰に向けて支援するための看護を学ぶ。							
授 業 内 容	第 1 回	生活の再構築とは					講義	
	第 2 回 ～ 第 10 回	大腸がん、乳がんにより手術を受ける人への看護 1) 消化器機能障害のアセスメント 2) 栄養管理 3) ストーマ造設術後の看護 4) ボディイメージの変調 5) 検査と看護 6) 乳房切除後の看護					講義	
	第 11 回 ～ 第 14 回	1) 慢性病との共存を支える看護 2) 障害のある人の生活とリハビリテーション 3) 日常生活機能の保護・維持と社会復帰に向けた看護技術 4) その人らしい日常生活再構築のための看護技術					講義	
	第 15 回	終講試験						
評 価 方 法	・ 授業態度、出席状況 ・ 終講試験							
テ キ ス ト	配布資料 成人看護学総論 医学書院 消化器 医学書院 女性生殖器 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専 門	領 域	成人看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	セルフマネジメントを必要とする人への看護 講義・30 時間・1 単位			教員名	有松 実里・宗田 美穂子			
目 的	成人期の対象者は生活を営む主体である。そのため、疾病の予防、健康の保持・増進、健康の回復において自己管理ができるように教育することが重要である。あらゆる健康レベルの成人期にある人が病と共存するために重要なセルフマネジメント能力を身につけられるために支援する看護について理解する。							
授 業 内 容	1. 内分泌・代謝障害をもつ患者の看護 ・糖尿病の分類（Ⅰ型・Ⅱ型） ・高血糖に伴う症状と看護 ・薬物療法と日常生活の指導 薬物療法の作用・副作用、服薬指導・インスリン自己注射の指導、シックデイ・フットケア ・合併症（急性・慢性）の予防と看護 ・長期セルフケアに伴う問題とセルフコントロールへの看護 ・糖尿病事例をもとに看護を考える 2. 排泄機能障害をもつ患者の看護							
	回数	授業内容					テキスト	
	1. 生活習慣を改善するために必要な看護とは セルフケアを支える看護 セルフケア、セルフマネジメントの概念 行動変容を高める看護						成人看護学総論 腎・泌尿器	
	2. 腎・泌尿器系の看護を学ぶにあたって 医療と動向 慢性疾患を持つ患者の特徴 看護の役割 腎・泌尿器の構造と機能						腎・泌尿器	
	3. 慢性腎臓病（CKD）患者の看護 急性腎不全の分類と治療、慢性腎不全の病気の進行と治療・看護 慢性腎臓病（CKD）の診断基準と重症度分類						腎・泌尿器	
	4. 慢性腎臓病（CKD）患者の看護 慢性腎臓病（CKD）の病期に応じた生活指導 検査 腎生検を受ける患者の看護 浮腫のある患者の看護（グループ演習：事例患者の具体的指導）						腎・泌尿器	
	5. 発表						腎・泌尿器	
	6. 透析療法を受ける患者の看護 保存期から透析導入前（治療選択期）の患者の看護 透析療法の適用基準と選択 血液透析、腹膜透析患者の看護 透析と社会保障 シャント造設と管理 食事管理 血液透析維持期の検査目標値、合併症の理解と自己管理に向けた支援 血液透析治療での看護の実際 治療前、治療中、治療後の患者の看護と透析 機器の準備とチェック						腎・泌尿器	
	評 価 方 法	1. 終講試験 2. 出席状況						
	テ キ ス ト	成人看護学総論 医学書院 腎・泌尿器 医学書院 内分泌・代謝 医学書院						
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造		分 野	専 門	領 域	老年看護学
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	緩和ケアを必要とする人への看護 講義・30 時間・1 単位			教員名	宗田 美穂子			
目 的	人生の最期のときにある人や治癒することが困難な状態にある人の、全人的苦痛を緩和しその人が望む人生を送るための看護援助について理解する。 緩和ケアにおける倫理的問題、緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援、苦痛を緩和するための症状マネジメントと看護、家族への支援について、呼吸機能障害、造血器障害をもつ対象者の看護をとおして学ぶ。							
授 業 内 容	回数	授業内容				テキスト		
	1	緩和ケアとは何か 呼吸器疾患の医療と動向 患者の特徴 看護の役割 呼吸の構造と機能				成人看護学総論 腎・泌尿器		
	2	肺がん事例患者の全人的苦痛をアセスメント				緩和ケア 呼吸器		
	3	病態像 症状 検査データ 精神的 社会的 スピリチュアル						
	4	呼吸器症状に対する看護（咳嗽・喀痰、血痰・咯血、呼吸困難）				緩和ケア 呼吸器		
	5	気管支鏡検査を受ける患者の看護 胸腔ドレナージを受ける患者の看護				緩和ケア 呼吸器		
	6	肺がんの治療と看護 治療計画（レジメン） 化学療法、放射線療法の副作用に対する看護				緩和ケア 呼吸器		
	7	がん性疼痛の治療法 WHO 式がん疼痛治療法 除痛ラダー 鎮痛薬の分類 オピオイドの副作用				緩和ケア 呼吸器		
	8	血液・造血器疾患の医療の動向 患者の特徴 看護の役割				緩和ケア		
	9	血液の成分とはたらき（造血幹細胞の分化と成熟 止血機構と線溶 免疫）				血液・造血器		
	10	貧血により起こる症状と看護 貧血の判定基準 赤血球指数による貧血の分類 貧血症の種類と特徴				緩和ケア 血液・造血器		
	11	造血器腫瘍とは 急性白血病と慢性白血病の特徴 白血病の治療 支持療法 輸血療法を受ける患者の看護 造血幹細胞移植の概要 意思決定の支援 治療開始前の患者教育				緩和ケア 血液・造血器		
	12	同種幹細胞移植を受ける患者の看護				緩和ケア		
	13	移植の経過に沿った全人的苦痛を緩和するための看護				血液・造血器		
	14	死にゆく患者の心理と家族への看護				緩和ケア		
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 出席状況							
テ キ ス ト	成人看護学総論 血液・造血器	医学書院 医学書院	呼吸器 緩和ケア	医学書院 医学書院				
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専門分野	領 域	老年看護学	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	高齢者の健康障害と看護 講義・15 時間・1 単位			教員名	宗次 美登理			
目 的	高齢者の特徴的な疾病、障害を理解し、状況や症状に応じた看護の視点と予防を重視した看護の基本を学ぶ。							
授 業 内 容	1. 症候のアセスメントと看護（痒み、脱水） 2. 認知機能障害のある高齢者の看護（うつ、せん妄、認知症） 3. 手術を受ける高齢者の看護（手術を受ける高齢者の特徴、術前術後の看護マネジメント…白内障） 4. 入院治療を受ける高齢者の看護 ・治療を担う医療施設の状況 ・入院に伴う環境の変化と高齢者への影響 ・入院初期の援助・家族への配慮 ・チーム医療、退院調整・退院支援							
評 価 方 法	1. 筆記試験 2. 授業態度・出席点を加味する							
テ キ ス ト	老年看護学 医学書院 老年看護・病態・疾患論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解	分 野	専門分野	領 域	小児看護学	
年次・学期	2 年次・前後年			担当科	看護学科			
科 目 名	子どもの健康障害と看護 講義・30 時間・1 単位			教員名	山下 敬子			
目 的	様々な健康レベルの子どもと家族の健康上の問題を理解し、子どもによくみられる症状及び治療・処置に伴う看護を学ぶ。							
授 業 内 容		回	項目	内容			担当	
		1	1. 小児特有の疾患	先天異常：染色体異常 (ダウン症・ターナー症候群他) 先天性代謝異常			片山	
		2		新生児・低出生体重児 (新生児仮死・呼吸窮迫症候群、頭蓋内出血)			片山	
		3		神経疾患（水頭症・てんかん・熱性けいれん・髄膜炎・発達障害・注意欠陥多動症）			片山	
		4 5	2. 疾病・障害をもつ子どもと家族の看護 3. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護 1) 入院中の子どもと家族 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 災害時の子どもと家族の看護			山下	
		6	4. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護	1) 骨髄検査・腰椎検査 2) 検体採取（尿・血液など） 3) 薬物動態 4) 与薬、輸液管理				
		7 8	5. 子どもに出現しやすい症状と看護	発疹・発熱・脱水・呼吸困難・痙攣などを示す子どもと家族の看護（急性感染症を含む）			山下	
		9 10	6. 慢性期にある子どもと家族の看護	慢性期疾患の特徴と看護 若年性糖尿病の子どもと家族の看護 ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護 気管支喘息の子どもと家族の看護			山下	
		11 12	7. 急性期にある子どもと家族の看護	急性期疾患の特徴と看護 腸重積の子どもと家族の看護 手術を受ける子どもと家族の看護			山下	
		13 14	8. 終末期にある子どもと家族の看護	1) 子どもの死の概念 2) 終末期にある子どもと家族の特徴 3) 終末期の看護			山下	
	評 価 方 法	1. 筆記試験 2. 小テスト 3. 課題レポート						
	テ キ ス ト	小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院						
	備 考							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解	分 野	専門分野	領 域	母性看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	命をはぐくむしくみと看護 講義・30 時間・1 単位			教員名	柴田 貴子			
目 的	正常な経過をたどる妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある対象の生理的变化に応じた看護を学ぶ。また、新しい命とその家族の関係再構築にむけた看護を学ぶ							
授 業 内 容	1. 不妊症の看護 2. 妊娠の生理：妊娠の成立 3. 胎児の発育とその生理：染色体・分裂～羊水の機能 4. 胎児の発育とその生理：胎児の生理～母体の生理的機能 5. 妊娠と妊娠経過の診断：妊娠反応・ネーゲレ概算法・超音波診断法など 6. 妊娠と妊娠経過の診断：レオポルド触診法・NST モニターなど 7. 母体の生理的機能と心理：母体の生理的变化 8. 妊娠中の生活と心理：活動と休息、マイナートラブルなど 9. 分娩の要素と経過：分娩3要素、分娩第1期・2期・3期・4期 10. 分娩の実際と各期の看護：分娩期の心理と看護 11. 産褥期の身体的・心理的变化 12. 産褥期の異常と逸脱を予防する看護 13. 新生児期の生理的变化と胎外生活への適応促進 14. 新生児期の異常と逸脱を予防する看護 15. 終講試験							
評 価 方 法	1. 筆記試験 2. 授業態度・出席点を加味							
テ キ ス ト	母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解	分 野	専 門	領 域	母性看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	健康障害がある母子への看護 講義・15 時間・1 単位			教員名	杉原 弥香			
目 的	近年、少子化、高齢初産、不妊治療の増加など命をはぐくむ環境が大きく変化している。合併妊娠やハイリスクになりうる要因も増加している。ウェルネスから逸脱した周産期の母子の健康障害について理解し、必要な援助を学ぶ。妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に起こりやすい異常について視覚的教材を活用しながら理解を深める。							
授 業 内 容	1. 妊娠期のウェルネスからの逸脱 1) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常 偶発全身性疾患 妊娠期の感染症 妊娠悪阻 多胎妊娠流産 血液型不適合妊娠 早産 過期妊娠 子宮外妊娠 常位胎盤早期剥離 前置胎盤 妊娠高血圧症候群 2) ハイリスク妊婦・異常をきたした妊婦の治療と看護 2. 分娩期のウェルネスからの逸脱 1) 分娩期の異常 産道の異常 娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害 胎児付属物の異常 分娩時の損傷 分娩第 3 期及び分娩直後の異常 分娩時の異常出血 産科処置 帝王切開 胎児機能不全 2) 異常をきたした産婦の治療と看護			3. 産褥期のウェルネスからの逸脱 1) 産褥期の異常 進行性変化と退行性変化の異常 褥婦の心理 2) 異常をきたした褥婦の治療と看護 4. 新生児期のウェルネスからの逸脱 1) 新生児期の異常 低出生体重児 先天異常・障害を持つ新生児 分娩外傷 新生児仮死 2) 異常をきたした新生児の治療と看護				
評 価 方 法	1. 筆記試験							
テ キ ス ト	母性看護学各論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解	分 野	専 門	領 域	精神看護学	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	精神障がいがある人への看護 講義・30 時間・1 単位			教員名	高木 俊輔・余傳 節子			
目 的	精神障がいの特徴や状態像、治療、検査、経過に応じた看護を学び、精神看護の実際を理解する。 また、精神に障がいがある人を取り巻く家族・地域・社会への支援のあり方を学ぶ。							
授 業 内 容	1. 精神障がいの理解 ・精神障がいのとらえかた ・精神疾患の3分類 ・主な症状 2～3. 統合失調症の病態と看護 ・疫学と成因 ・病型の特徴 ・症状 ・治療 ・抗精神病薬の有害事象 ・看護の基本姿勢 4～5. 感情障害の病態と看護 ・疫学と成因 ・病型の特徴 ・症状 ・治療 ・看護の基本姿勢 6. 精神作用物質使用による精神及び行動障害の病態と看護 ・嗜癖の理解 ・精神依存と身体依存 ・アルコール症の特徴と治癒過程 ・薬物依存の特徴 ・依存と家族 ・看護の基本姿勢 7. 摂食障害の病態と看護 ・分類と特徴 ・疫学 ・症状 ・治療 ・看護の基本姿勢 8. パーソナリティ障害の病態と看護 ・分類と特徴 ・境界性パーソナリティ障害の特徴と症状及び心理特性 ・薬物療法と精神療法 ・看護の基本姿勢 9. 強迫性障害の病態と看護 ・診断と特徴 ・症状 ・治療 ・看護の基本姿勢 10. 不安障害の病態と看護 ・不安障害の種類と特徴 ・症状 ・治療 ・看護の基本姿勢 11. PTSD の病態と看護 ・診断と特徴 ・症状 ・治療 ・看護の基本姿勢 12. 多様な症状を示す精神障がい ・解離性障害 ・身体表現性障害 ・神経症性障害 ・症状精神病と心身症 13. 精神科における身体合併症と看護 ・精神科におけるフィジカルアセスメント ・多飲症と水中毒 ・イレウス ・メタボリックシンドローム 14. 精神障がいと家族支援 ・家族間コミュニケーション ・家族役割 ・家族の感情表出と家族心理教育 ・家族療法とナラティブアプローチ 15. 終講試験							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. レポート課題 3. 出席状況							
テ キ ス ト	精神保健 医歯薬出版 精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の理解と創造	領　域	看護の理解		分　野	専　門	領　域	成人・老年看護学
年次・学期	3年次・通年			担当科	看護学科			
科　目　名	クリティカルケア実習 実習・80時間・2単位			教員名	看護学科教員			
目　　的	急速に健康状態が変化する病態や治療とその影響について理解する。また、注意深い観察とアセスメントにより状態を悪化させる要因を取り除き身体の機能の安定や合併症の予防、早期回復に向けて支援する看護師の役割を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。							
授　業　内　容	看護師とともに行動し、救急及びクリティカルな状況下にある対象への治療・処置・検査および看護援助の実際をととして経過にそった変化をとらえ、合併症を予防し回復にむけて支援する看護のあり方を理解する。 実習場所： 川崎医科大学附属病院または川崎医科大学総合医療センターまたは心臓病センター榊原病院 実習時間： 事前オリエンテーション；4時間学内 月～木8日間；64時間臨地（8:30～15:15　昼45分） 1週目2週目金；12時間学内（10:40～16:10　講義時間に準じる）							
評　価　方　法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・合否の可否は審議し、決定する。							
テ　キ　ス　ト	実習要項 臨床外科総論　　医学書院　　呼吸器　　医学書院　　循環器　　医学書院 成人看護学総論　　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系				指定規則			
分　　野	看護の理解と創造	領　域	看護の理解	分　野	専　門	領　域	成人・老年看護学
年次・学期	3年次・通年			担当科	看護学科		
科　目　名	セルフマネジメント看護実習 実習・120時間・3単位			教員名	看護学科教員		
目　　的	対象者のセルフマネジメント能力を引き出し、自己管理に向けて自己効力を高めるように支援する看護師の役割を学ぶ。また、終末期の対象者へ全人的苦痛を緩和しその人が望む人生を送ることができるよう支援する看護師の役割を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。						
授　業　内　容	慢性・不可逆的な健康課題をもつ対象者を受け持ち、疾患及び治療と折り合いをつけながら生活するためのマネジメント能力を支援する。また、終末期の対象者が望む人生を支援する。 実習場所： 川崎医科大学附属病院または川崎医科大学総合医療センター 実習時間： 事前オリエンテーション；6時間学内 月～木12日間；96時間臨地（8:30～15:15　昼45分） 1～3週目金；18時間学内（10:40～16:10　講義時間に準じる）						
評　価　方　法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・可否の可否は審議し、決定する。						
テ　キ　ス　ト	実習要項 臨床看護総論、呼吸器、循環器、内分泌・代謝、血液・造血器、成人看護学総論　医学書院						
備　　考							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解	分 野	専 門	領 域	成人・老年看護学	
年次・学期	3 年次・前後期			担当科	看護学科			
科 目 名	療養生活を支える看護実習 実習・120 時間・3 単位			教員名	看護学科教員			
目 的	療養生活を必要とする高齢者の健康状態と加齢変化が及ぼす影響を考えながら、起こりうるリスクを最小化し、もてる力を引き出し、退院支援や地域連携の考え方を知り、高齢者の看護の特徴と役割を知る。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。							
授 業 内 容	対象者を 1 人受け持ち、疾患からくる特異的な症状や非特異的な症状にも考慮し、看護につなげる。また、入院治療により起こりうる老年症候群などのリスクを軽減し、生活機能の回復に向かう看護を実践する。さらにヘルスケアシステムの活用を踏まえた退院支援と地域連携の考え方を学ぶ。 実習場所 川崎医科大学附属病院または川崎医科大学総合医療センターまたはスイートホスピタル 事前オリエンテーション：6 時間学内 月～木 12 日間：96 時間臨地（8:30 ～ 15:15 昼 45 分） 1 週目 2 週目金：12 時間学内（10:40 ～ 16:10 講義時間に準じる）							
評 価 方 法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・可否の可否は審議し、決定する。							
テ キ ス ト	実習要項 老年看護学 医学書院 老年看護・病態・疾患論 医学書院							
備 考	参考文献：「生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図」医学書院 「根拠と事故防止からみた老年看護技術 第 3 版」医学書院							

教育課程独自体系				指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解	分 野	専門分野	領 域	母性看護学
年次・学期	3 年次・前期後期			担当科	看護学科		
科 目 名	命をはぐくむ人への看護実習 実習・80 時間・2 単位			教員名	看護学科教員		
目 的	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者の生理的変化をふまえ、対象に応じた看護を学ぶ。また、新しい命を迎える家も含めた看護について学ぶ。 生命の尊厳・生命倫理について考え、母性看護の意義、役割を体験と理論を統合して理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。						
授 業 内 容	命をはぐくむ女性は自らの健康を整えながら、家族とともに産まれくる児を慈しみ、健全な育成を行う存在である。そのため、母性特有の身体的精神的な変化に対してウェルネスの視点で支援する必要がある。この実習では、妊娠、分娩、産褥、新生児各期の生理的過程を理解し、母子とその家族を同時に看護することを学び、社会背景や環境が母子へ与える影響に対して必要な援助について理解する。また、近年のハイリスク妊産婦の増加に伴い、正常から逸脱するリスクが高まると考えられるため、それを判断する知識と技術を体験を通して学ぶ。そして、次世代を生み育てる家庭の出発点になる母子の愛着形成を促し親性の育成について考えるとともに、女性の社会的役割や核家族化の背景を踏まえ、退院後の支援体制を理解する。 実習場所：岡山中央病院または岡山日赤病院または岡山市市民病院または川崎医科大学附属病院 ・事前オリエンテーション：4 時間（学内） ・1 週目 月曜日～木曜日（4 日間）：8 時間 臨地実習（8:30～15:15 昼 45 分） 2 週目 月曜日～木曜日（4 日間）：8 時間 学内実習（8:30～15:15 昼 45 分） 1 週目 2 週目 金曜日：12 時間 学内（10:40～16:10）講義時間に準じる						
評 価 方 法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・可否の可否は審議し、決定する。						
テ キ ス ト	母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院						
備 考							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の理解		分 野	臨地実習	領 域	精神看護学
年次・学期	3 年次・前後期			担当科	看護学科			
科 目 名	精神看護学実習 実習・80 時間・2 単位			教員名	看護学科教員			
目 的	対象者との治療的関係の構築をととして精神に障がいがある対象者の精神症状が生活に及ぼす影響を理解し、対象者の自律性の回復を支える看護の役割を理解する。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。							
授 業 内 容	1）精神に障がいがある人の全人的な理解 2）生活する能力の維持向上のための看護と自律性回復への支援 3）治療的コミュニケーションの活用 4）自己洞察と治療的関係の構築 5）対象者の尊厳を守るための法律と看護師の役割の理解 実習場所：河田病院・万成病院 事前オリエンテーション：4 時間学内 月～木 8 日間：64 時間臨地（8:30～15:15 昼 45 分） 1 週目 2 週目金：12 時間学内（10:40～16:10 講義時間に準じる）							
評 価 方 法	評価基準表に基づいて、教員・指導者で協議し評価を行う。 合格の可否は評価会議で審議し、決定する。							
テ キ ス ト	実習要項 精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院 社会保障・社会福祉 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専門基礎分野	領 域	疾病の成り立ちと回復の促進	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	看護に活かす病態生理 講義・30 時間・1 単位			教員名	都甲 裕美・山下 敬子			
目 的	疾病をもつ対象者に適切な看護を行うためには、看護援助の知識に加え、その対象者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が対象者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解する必要がある。そのため、看護学の視点から看護展開に活かすための人体の構造や機能、病態のとらえかたについて理解し、健康状態を的確に把握する能力の基盤となるよう演習をとおして学ぶ。							
授 業 内 容	回	授業内容				授業形態		
	1 2 3	生活者としての人間の構造と機能の理解 ・身体の一部が生活者としての人間をどのように支えているのか人体マップを作成する。				講義・演習		
	4 5	脳・神経、身体を支えるしくみと病態生理						
	6	皮膚・感覚器のしくみと病態生理						
	7 8	呼吸と循環、生命を維持するしくみと病態生理						
	9 10	食と排泄、栄養の消化・吸収のしくみと病態生理						
	11 12	肝臓と腎臓、内分泌・代謝、泌尿器のしくみと病態生理						
	13 14	事例対象者の症状・徴候に対応した病態関連図				グループワーク		
	15	プレゼンテーション						
	評 価 方 法	1. 提出物 2. 小テスト 3. 出席点						
テ キ ス ト	解剖生理学 医学書院 病理学 医学書院 臨床看護総論 医学書院 臨床外科看護学総論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専門基礎分野	領 域	疾病の成り立ちと回復の促進	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	看護に活かす疾病と治療 講義・30 時間・1 単位			教員名	都甲 裕美・山下 敬子			
目 的	疾病により治療をうける対象者の回復過程を支えるためには、その対象者に行われる治療や処置がどのような目的で行われるのか、治療後の経過を見極め、異常の早期発見につながる症状や徴候にはどのようなものがあるのか理解する必要がある。そのため、看護学の視点から学んだ個々の知識を活用し、いまこの状態にある対象者をどのようにとらえ、何をすべきかを判断する臨床判断能力の基礎を学ぶ。							
授 業 内 容	回数	内容				授業形態		
	1	急性冠症候群について ・疾患の特徴と治療、処置、検査、看護について				講義		
	2 3 4 5 6 7	急性冠症候群の事例展開 ・電子カルテの活用による情報収集 ・疾患・症状・治療・処置を関連づけて状態を把握 ・事例の状態を観察し、治療後の経過を見極める ・回復過程を支える看護				個人ワーク・演習		
	8	がんについて ・胃がんの特徴と治療、処置、検査 ・放射線療法を受ける対象への看護 ・化学療法を受ける対象への看護				講義		
	9 10 11 12 13 14	胃がん対象者への事例展開 ・電子カルテの活用による情報収集 ・疾患・症状・治療・処置を関連づけて状態を把握 ・事例の状態を観察し、治療後の経過を見極める ・回復過程を支える看護				グループワーク・演習		
	15	終講試験						
	評 価 方 法	1. 提出物 2. 終講試験 3. 出席点						
テ キ ス ト	解剖生理学 医学書院 病理学 医学書院 臨床看護総論 医学書院 臨床外科看護学総論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専 門	領 域	基礎看護学	
年次・学期	1 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	研究的思考と看護理論 講義・15 時間・1 単位			教員名	大森 和子			
目 的	看護を科学的に考え実践する能力を身につけるために、看護における研究の基礎的知識について学習する。また、看護における知識を体系化し、看護に関連した現象を説明するための枠組みである看護理論において代表的な看護理論家の考えを学び、看護について探究し、自己研鑽していく姿勢を養う。							
授 業 内 容	1. 看護研究とは 2. 研究における倫理的配慮、理論 3. 研究計画書の意義 4. 文献検索の方法・看護研究の種類（事例研究・調査研究・文献研究など） 5. 看護研究の方法と進め方 6～7. 代表的な看護理論家の看護理論を理解する。（親しむ） 1) ヴァージニア＝ヘンダーソン 2) ドロセア＝ E ＝オレム 3) ヒルデガード＝ E ＝ペプロウ 4) パトリシア＝ベナー 8. 発表・まとめ							
評 価 方 法	1. 筆記試験（100 点） 2. グループ課題、レポート 3. 授業態度、出席状況 この3つを総合して評価します。							
テ キ ス ト	配布資料 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ひとりで学べる看護研究 照林社							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の理解と創造	領　域	看護の創造	分　野	専　門	領　域	基礎看護学	
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科　目　名	看護研究の実際 講義・15 時間・1 単位			教員名	看護学科教員			
目　　的	実習で体験した事例について文献と照らし合わせて看護の現象を科学的に分析する。その過程においてうまくいった点やうまくいかなかった点を明確にし、そのときの最善の看護を追求する。その結果、看護を提供する者として常に看護を振り返る重要性を理解する。							
授　業　内　容	基礎看護学実習Ⅱで受け持った対象者の看護を「現状」「課題」「課題解決策」「具体的提案」の視点で明らかにする。 1～2. 対象者の「現状」「課題」を明確にする。 3～5. 実施した看護がどうであったか評価する。 6～8. 評価を科学的に分析し、その対象者にとっての最善の看護を明確にする。							
評　価　方　法	1. レポート課題 2. 授業態度、出席状況 この2つを総合して評価します。							
テ　キ　ス　ト	配布資料 基礎看護技術Ⅰ　医学書院 ひとりで学べる看護研究　照林社							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専 門	領 域	基礎看護学	
年次・学期	1 年次・前・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	日常生活行動を支える技術評価 講義・30 時間・1 単位			教員名	山下 純子 他			
目 的	複数の看護技術を用いて対象者の状態に応じた看護実践を判断・選択し、倫理的判断に基づき安全・安楽・自立の視点をもって看護実践ができる基礎的能力を身に付ける。							
授 業 内 容	1. 環境を整える技術評価 快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換、体位変換・保持 2. 日常生活援助技術評価 清拭、足浴・手浴、洗髪、点滴、ドレーンなどを留置している患者の寝衣交換							
評 価 方 法	1. 筆記試験 2. 技術評価 3. 課題 4. 授業態度							
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の理解と創造	領　域	看護の創造	分　野	専　門	領　域	地域・在宅看護論	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	在宅での医療管理と看護 講義・30 時間・1 単位			教員名	定金　直美			
目　　的	地域包括ケアシステムの構築により、在宅において医療処置を受けながら療養する人は増え、それに伴い在宅での看護師の役割も高まっている。ここでは、在宅で療養している医療依存度の高い対象者や家族が、支援を受けながら、自律した生活がおくれるようにするための看護の役割を学ぶ。特に在宅で医療管理を行うにあたり頻度の高い診療の補助技術に関する看護について演習をとおして学ぶ。							
授　業　内　容	1. 在宅療養で頻度の高い医療処置とそれを支える制度について 2～3. 在宅中心静脈栄養法（HPN）を受ける療養者の看護 4. 膀胱留置カテーテルを装着中の療養者の看護 5～6. 在宅酸素療法を受ける（HOT）療養者の看護 7～8. 気管カニューレを装着中の療養者の看護 9～13. ALS 療養者の看護（人工呼吸器装着・胃ろう造設） 14. まとめ 15. 終講試験 ※看護技術 32. 口腔内・鼻腔内吸引 33. 気管内吸引 ※県申請技術項目⇒ NO.8、11、30、32、33、68							
評　価　方　法	1. 終講試験 2. レポート課題 3. 出席状況・態度							
テ　キ　ス　ト	在宅看護論　医学書院 呼吸器　医学書院 脳神経　医学書院 配布資料							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専 門	領 域	成人看護学	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	成人の健康レベルに対応した看護プロセス 講義・30 時間・1 単位			教員名	都甲 裕美・清水 恵子			
目 的	成人期にある人の事例をもとに、あらゆる健康レベルに対応した特徴的な看護について理解する。また知識を活用して根拠に基づいて実践する看護のプロセスを理解し、必要な知識技術を身につける。さらにグループワークをとおして意見を交換し、演習をとおして他者から学ぶ力やプレゼンテーション能力を高める。							
授 業 内 容	成人期であらゆる健康レベルの 5 事例をもとに看護展開し、必要な看護を理解する。 1) クモ膜下出血患者の看護 2) 大腸がんによりストーマ造設術を受ける患者の看護 3) 肺がん患者の看護 4) 乳がん患者の看護 5) 糖尿病によりセルフマネジメントを必要とする患者の看護							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 授業態度・提出物・出席点を加味する							
テ キ ス ト	成人看護学総論 医学書院 消化器 医学書院 脳神経 医学書院 女性生殖器 医学書院 呼吸器 医学書院 内分泌 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専 門	領 域	老年看護学	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	高齢者の療養生活を支える看護プロセス 講義・30 時間・1 単位			教員名	有松 実里・宗次 美登理			
目 的	療養生活をおくる高齢者の事例をととして、老年期の発達課題と健康障害との関連性、健康の段階、生活過程の特徴、もてる力を正確にとらえ、看護実践に伴うリスクを予測し、安全な看護を提供するために必要な方法を演習をととして学ぶ。							
授 業 内 容	回数		授業内容					
	1 ～ 7		「脳梗塞患者の看護」 ・麻痺のある患者の退院後の生活を見据えた看護について考える 技術：排便・口腔ケア・褥瘡予防ケア					
	8 ～ 14		「大腿骨頸部骨折患者の看護」 ・人工骨頭置換術の患者の退院後の生活を見据えた看護について考える					
	15		終講試験 高齢者の看護を考えるために必要な知識・技術を問う					
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 課題提出 3. 出席・授業態度							
テ キ ス ト	老年看護学 医学書院 老年看護・病態・疾患論 医学書院							
備 考	参考図書：「生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図」医学書院 「根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版」医学書院							

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専 門	領 域	小児看護学	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	子どもを支援するための看護プロセス 講義・30 時間・1 単位			教員名	賀川 奈美			
目 的	子どもの健康障害によって生じる子どもの反応や成長発達への影響、家族への影響をふまえ、健康状態に応じた看護の方法について学習する。また、小児看護で必要となる看護技術を習得し、看護過程の展開について演習をとおして学ぶ。							
授 業 内 容	1 ～ 2：子どもを対象とした看護技術 検査や処置を受ける子どもと家族への看護（プレパレーション） 3 ～ 5：急性期にある子どもと家族の看護の実際 子どものフィジカルアセスメント（川崎病の事例をもとに） 6 ～ 8：成長・発達に応じた生活習慣の援助 抱っこ・衣類／おむつ交換・離乳食／調乳 9 ～ 14：紙上事例における看護過程の展開 15：終講試験							
評 価 方 法	1. 終講試験 2. 出席状況、提出物等							
テ キ ス ト	小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専 門	領 域	母性看護学	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	命をはぐくむ人への看護プロセス 講義・30 時間・1 単位			教員名	柴田 貴子・上田 良枝			
目 的	周産期の事例をもとに演習をととして母性特有の看護技術、臨床判断能力、コミュニケーション能力を高め、母性看護実践の基礎能力を養う。グループでの演習をととして、チームの中の一員としての自覚と役割を意識し協力しながら学びを共有する。 さらに命をはぐくむ人のライフサイクルにおける女性特有の健康課題（子宮疾患、卵巣疾患）について疾患の特徴を理解し、必要な看護を学ぶ							
授 業 内 容	I．周産期にある人への看護演習 1）妊娠期にある人への看護（事例） 2）妊娠期にある人への看護技術 （妊婦体験・レオポルド触診、NST モニター装着・判読） 3）分娩期にある人への看護（事例） 4）分娩期にある人への看護計画立案 5）産褥期にある人への看護（事例） 6）産褥期にある人への看護計画立案 7）産褥期にある人への看護技術 （褥婦の観察・子宮底触診・授乳介助・乳房ケア） 8）新生児期にある児への看護（事例） 9）新生児期にある児への看護計画立案 10）新生児期にある児への看護技術① （新生児の観察・光線療法・おむつ交換・更衣・びん哺乳） 11）新生児期にある児への看護技術② （沐浴） 12）退院後の育児支援 （退院指導・社会資源の活用など） II．女性特有の疾患と看護 13）子宮体がん・子宮頸がんの看護 14）卵巣がん・子宮内膜症・子宮筋腫の看護 15）終講試験							
評 価 方 法	1．筆記試験 2．レポート（看護計画立案・退院指導など） 3．授業態度・出席点を加味							
テ キ ス ト	母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専 門	領 域	精神看護学	
年次・学期	2 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	精神障がいがある人を支える看護プロセス 講義・15 時間・1 単位			教員名	岡田 麻理子			
目 的	精神看護は信頼関係の構築をベースに絶えず関わりの中で展開され、看護師は治療環境の一部である。自らが治療環境として作用するためには専門的視点において対象者を理解し、自らを活用して対象者のパーソナリティに働きかける技術が必要である。この科目では対象者と自分の境界を尊重しながら対人関係を構築し、精神に障がいがある人への看護の基礎的知識について学ぶ。また、精神の危機的状況にある人の安全を守るためのリスクマネジメントについて演習をとおして学ぶ。							
授 業 内 容	回数	表題	内容			授業形態		
	1	精神に障がいがある人の理解	発症から回復までのプロセスをとおして対象者を理解する			講義		
	2							
	3	治療的関係構築のための技術	・ペプロウの看護理論 ・コミュニケーション技術 ・プロセスレコードを用いた分析			講義		
	4	精神に障がいがある人への看護展開	・オレムアンダーウッドモデルを活用したセルフケア分析と看護展開の実際 ・急性期・回復期・慢性期の看護 ・精神科における観察とアセスメント ・こころの安寧を支えるケア			事例展開 一部演習		
	5							
	6							
	7	精神科におけるリスクマネジメント	・危機介入 ・事故防止（暴力・自殺・無断離院など）・CVPPP の技術 ・災害対策 ・行動制限が身体に及ぼす影響（身体拘束事例）			講義		
		終講試験						
評 価 方 法	1. 終講試験 2. レポート課題							
テ キ ス ト	精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開 医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造		分 野	専門分野	領 域	看護の統合と実践
年次・学期	2 年次・前期			担当科	看護学科			
科 目 名	国際・災害看護 講義・30 時間・1 単位			教員名	岩本 美代子・浅越 博之			
目 的	【国際看護】諸外国における保健医療福祉の課題を理解し、その対策の取り組みを理解する。また、世界的な防災・減災の取り組みについて学び、活動の土台となる人道支援の原則についても学ぶ。国内が世界と密接に関連している現状を理解し看護師の役割と協力の重要性を学ぶ。 【災害看護】災害発生時の準備、災害発生直後から復旧支援、中長期までの各期における看護活動を学ぶ。被災直後のトリアージや心肺蘇生法、急変時の対応について学ぶ。							
授 業 内 容	【国際看護】（岩本）							
	回数	授業内容						備考
	1	国際看護を学ぶ意義 世界の健康問題の現状、国際看護学の定義・対象						
	2	国際協力のしくみ（国連機関・政府機関・非政府組織）						
	3	近年の世界における災害と難民・閣内避難民の現状と支援について						
	4	グローバルヘルス、国際協力をふまえて看護の役割について考える						
	5	日本と異なる文化の理解（異文化とは）						
	6	AMDA における国際救援活動の実際						
	7	UNICEF における国際救援活動の実際						
	8	日本の外国人に対する看護の現状、今後の国際社会の発展						
	【災害看護】（浅越）							
	第1回	災害医療・看護の概要						講義
	第2回	救急医療と災害医療、災害時に起こりやすい疾病						講義
	第3回	災害経過別の看護活動（災害急性期）						講義
	第4回	災害経過別の看護活動（災害慢性期）						講義
	第5回	災害発生直後のトリアージ、START 法、心肺蘇生法について						講義
	第6回	災害発生直後のトリアージ、START 法の実際、心肺蘇生の実際						演習
	第7回	災害時のこころのケア						講義
	第8回	終講試験						
評 価 方 法	筆記試験・出席点・授業態度							
テ キ ス ト	看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学：医学書院							
備 考								

教育課程独自体系					指定規則			
分　　野	看護の理解と創造	領　域	看護の創造	分　野	専門分野	領　域	看護の統合と実践	
年次・学期	3 年次・後期			担当科	看護学科			
科　目　名	看護におけるマネジメント実習 実習・40 時間・1 単位			教員名	看護学科			
目　　的	看護チームの一員としての体験をとおして、看護サービス全体の在り方や多職種との連携の在り方を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。							
授　業　内　容	看護の統合と実践実習の中から、看護管理は管理者やリーダーのみがおこなうものではなく、すべての看護師が日々行っている看護実践の中に組み込まれているものであることを学び理解できる ＜内容＞ ・看護管理（看護サービス・ケア）のマネジメントの実際 ・チームの一員としての看護師の役割の実際 ・多重課題と優先順位を考慮した業務の実際 ・多職種との連携							
評　価　方　法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・可否の可否は審議し、決定する。							
テ　キ　ス　ト	看護管理　医学書院							
備　　考								

教育課程独自体系					指定規則			
分 野	看護の理解と創造	領 域	看護の創造	分 野	専門分野	領 域	看護の統合と実践	
年次・学期	3 年次・後期			担当科	看護学科			
科 目 名	看護の統合実習 実習・40 時間・1 単位			教員名	看護学科			
ね ら い	看護チームの一員としての体験をとおして、今まで学んだ知識・技術・態度を統合し、一日の業務の組み方、優先順位など看護を判断する根拠を学ぶ。 この目的をもって実習できるように看護師として長年臨床経験を有する教員と看護師として勤務する指導者と連携して支援を行う。							
授 業 内 容	看護の統合と実践実習の中から、看護管理は管理者やリーダーのみがおこなうものではなく、すべての看護師が日々行っている看護実践の中に組み込まれているものであることを学び理解できる ＜内容＞ ・看護管理（看護サービス・ケア）のマネジメントの実際 ・チームの一員としての看護師の役割の実際 ・多重課題と優先順位を考慮した業務の実際 ・他職種との連携							
評 価 方 法	・学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行う。 ・合否の可否は審議し、決定する。							
テ キ ス ト	看護管理 医学書院							
備 考								